

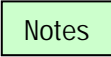





操作マニュアル

(バージョン 2021.0.01.01)

岡 山 県

このマニュアルの表記規則

[] 括弧で囲む	実画面上のボタンをクリックや選択などの操作が必要です。 (例 [OK])
「 」括弧で囲む	画面の名称などの引用です。 (例 「検索結果」)
 Notes	ソフトの画面各部に関する注釈、説明です。
 注意	各ソフトの操作に関する注意事項です。
 Tips	各ソフトの操作に関する補足説明です。
 操作手順	これ以降実操作の手順を示します。

Windows は米国マイクロソフト社の登録商標です。

Adobe Acrobat は米国アドビシステムズ社の登録商標です。

このマニュアルの内容に関しては、製品改良のため予告なしに変更することがあります。

このマニュアルの内容一部または全部を無断で複写・複製することは禁じられています。

目次

1. 概要	1-1
1.1 対応要領 (案)	1-2
1.2 主な機能	1-4
1.3 検査項目	1-5
2. クイックスタート	2-1
3. 電子納品チェックシステムの基本操作	3-1
3.1 電子納品チェックシステムの起動と終了	3-2
3.2 メイン画面構成	3-3
4. 電子納品チェックシステムで成果品の検査	4-1
4.1 検査方法	4-2
4.2 検査の結果	4-12
4.2.1 検査結果のタブ	4-13
4.2.2 適用要領 (案) 情報	4-30
4.3 検査済みの成果品データ再表示	4-31
4.4 検査操作ログの表示	4-32
5. 環境設定	5-1
5.1 動作設定タブ	5-3
5.2 オプション設定タブ	5-9
5.2.1 PDFチェックの設定	5-10
5.2.2 CADチェックの設定	5-11
6. 自動アップデート機能	6-1
6.1 自動アップデート	6-2
6.2 インターネットに接続していない環境での起動	6-2
7. エラー・注意メッセージ集	7-1
7.1 情報・ファイル構成チェック	7-2
7.2 XML構成チェック	7-4
7.3 PDFチェック	7-12
7.4 CADチェック	7-13
7.5 日付チェック	7-15

1.概要

岡山県電子納品チェックシステム（以下、チェックシステム）は、電子成果品データが電子納品要領（案）等に準拠した構成になっているかの検査を行うシステムです。

この操作説明書では、岡山県電子納品チェックシステムを用いて電子成果品データの検査方法について、説明します。

1.1 対応要領（案）

チェックシステムの対応要領（案）を示します。

チェックシステムは、国土交通省、農林水産省、官庁営繕の要領（案）等に対応します。

【表 1】 対応する各策定年月要領一覧 [国土交通省] :

土木設計業務の電子納品要領	平成 28 年 3 月版
工事完成図書の電子納品要領	平成 28 年 3 月版
デジタル写真管理情報基準	平成 28 年 3 月版
CAD 製図基準	平成 29 年 3 月版
地質・土質調査成果電子納品要領	平成 28 年 10 月版
測量成果電子納品要領(案)	平成 30 年 3 月版
土木設計業務・電気通信設備編	平成 28 年 3 月版
工事完成図書・電気通信設備編	平成 28 年 3 月版
CAD 製図・電気通信設備編	平成 29 年 3 月版
土木設計業務・機械設備工事編	平成 28 年 3 月版
工事完成図書・機械設備工事編	平成 28 年 3 月版
CAD 製図・機械設備工事編	平成 29 年 3 月版

【表 2】 対応する各策定年月要領（案）一覧 [農林水産省] :

設計業務等の電子納品要領(案)	平成 31 年 3 月版
工事完成図書 of 電子納品要領(案)	平成 31 年 3 月版
電子化写真データの作成要領(案)	平成 31 年 3 月版
電子化図面データの作成要領(案)	平成 31 年 3 月版
地質調査資料整理要領(案)	平成 31 年 3 月版
測量成果品電子納品要領(案)	平成 31 年 4 月版
設計業務・電気通信設備編	平成 31 年 3 月版
工事完成図書・電気通信設備編	平成 31 年 3 月版
電子化図面データ・電気通信設備編	平成 31 年 3 月版
設計業務・機械設備工事編	平成 31 年 3 月版
工事完成図書・機械設備工事編	平成 31 年 3 月版
電子化図面データ・機械設備工事編	平成 31 年 3 月版

【表 3】 対応する各策定年月要領（案）一覧 [官庁営繕] :

建築設計業務等の電子納品要領(案)	平成 14 年 11 月版
営繕工事電子納品要領(案)	平成 14 年 11 月版
建築 CAD 図面電子納品要領(案)	平成 14 年 11 月版

1.2 主な機能

チェックシステムの主な機能を紹介します。

■ 電子納品データ判別機能

電子納品データを読み込む際に、DTD バージョンを自動的に判別し、検査を行います。但し、DTD バージョンやデータが含まれていない場合、どちらを検査の基準にするかは、手動で選択する必要があります。

■ 検査機能

電子納品データを読み込み、XML ファイルの規約（XML 構文、入力項目）、及び納品ファイルの規約（ファイル名称、存在）、PDF ファイル、CAD ファイルについて、検査を行います。検査結果は検査結果レポートとして表示／印刷が可能です。

■ ウィザード機能

ウィザード形式で検査を行うとユーザーと対話形式で、入力元や出力先の選択から検査に関する全ての設定ができます。

1.3 検査項目

チェックシステムで検査する項目について、説明します。

チェックシステムで検査する項目：

検査項目		検査内容
入力項目検査	必須入力検査	必須入力を検査する
	文字数検査	文字数を検査する
	使用文字検査	使用文字コードを検査する
納品ファイル名の命名規則検査	文字数検査	文字数を検査する
	使用文字検査	使用文字コードを検査する
	拡張子検査	拡張子が、フォルダ毎の指示通りか検査する
	連番検査	ファイル名に連番を持つものに対して、正しく連番が設定されているか検査する
XML ファイルの検査	XML ファイルの存在検査	XML ファイルが存在するか検査する
	XML ファイルの内容検査	DTD の通りに、タグおよびデータが指定されているか検査する
	納品ファイルの存在検査	XML ファイルの指示通りに、納品ファイルが存在しているか検査する
CAD チェック	レイヤ名、線種、線色、線幅、図面サイズ、余白サイズ、文字サイズ、禁則文字等を検査する ※SURVEY の CAD チェックは、レイヤ名のみ検査する	
PDF チェック	しおり、セキュリティを検査する	
日付チェック	「実ファイルの更新日時と INDEX の工期範囲情報」や「JPG ファイルの EXIF 情報とファイル更新日時」に不整合がないか検査する（初期状態：OFF / 通常使用しません。）	

2.クイックスタート

この章では、チェックシステムの簡単な操作手順（クイックスタート）について説明します。

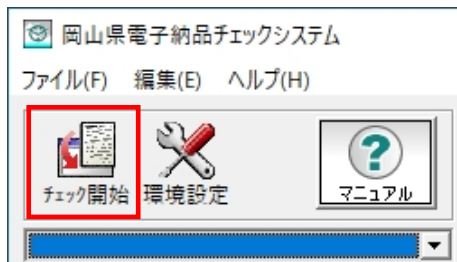
1. 岡山県電子納品チェックシステムの起動

デスクトップにあるアイコンをダブルクリックします。



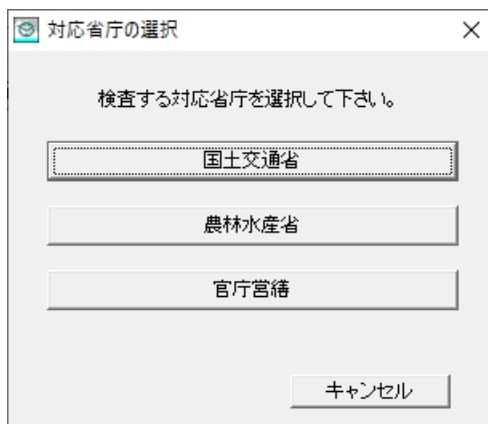
2. チェック開始

メイン画面のチェック開始のアイコンをクリックします。



3. 対応省庁の選択

検査する成果品に対応する省庁名をクリックします。



4. 検査する電子成果品の場所を指定 (STEP1)

参照ボタンをクリックして、成果品を指定し、[次へ]をクリックします。

成果品の入力元を指定してください

Step-1 検査する電子成果品の場所を指定します。

成果品を入れたドライブ及び「参照」を押して
成果品ファイルの位置を指定してください。

C: 参照

画面内に成果品をドラッグ&ドロップすることでも、成果品選択できます
 次回からこの画面を表示しない

次へ キャンセル



5. 検査実行条件を指定 (STEP2)

報告書ファイルのサイズ、PDF ファイル・CAD ファイルをチェックするかを指定し、[次へ]をクリックします。

検査条件を指定します

Step-2 検査実行条件を指定します。

10 報告書ファイルの最大サイズ(MB)

PDFチェック CADチェック

出力先 C:\Users\master\Documents
フォルダ名 チェック結果 参照

次回からこの画面を表示しない

戻る 次へ キャンセル



6. 対応要領（案）及び検査するフォルダを指定（STEP3）

A.作成された成果品の対応要領（案）・年月が自動で選択されます。

事前協議で定めた要領(案)の年月になっているかを確認して下さい。

※要領(案)によっては自動選択されない場合もあります。

B.検査しないフォルダがある場合、チェックをはずして下さい。

通常はこの設定で問題ありません。[実行] をクリックします。

入力された電子納品成果品の情報

Step-3 対応要領（案）及び検査するフォルダを指定します。

要領(案)の選択

要領(案)の種類 **土木設計業務 平成28年3月**

デジタル写真管理情報基準	平成28年3月
CAD製図基準	平成29年3月
地質・土質調査成果電子納品要領	平成28年10月
測量成果電子納品要領	平成30年3月

検査フォルダの指定

<input checked="" type="checkbox"/> REPORT(報告書フォルダ)	<input checked="" type="checkbox"/> PHOTO(写真フォルダ)
<input checked="" type="checkbox"/> DRAWING(図面フォルダ)	<input checked="" type="checkbox"/> BORING(地質データフォルダ)
<input checked="" type="checkbox"/> SURVEY(測量フォルダ)	

次回からこの画面を表示しない

戻る **実行** キャンセル



7. 検査の実行

検査が実行され、進捗状態が表示されます。処理が終了すると、完了メッセージ画面が表示されますので、[OK] をクリックします。

検査の実行

電子納品成果品検査の実行

実行状況

電子納品成果品の検査

データをチェックしています
TS001027.XML

48%

キャンセル

電子納品チェックソフト

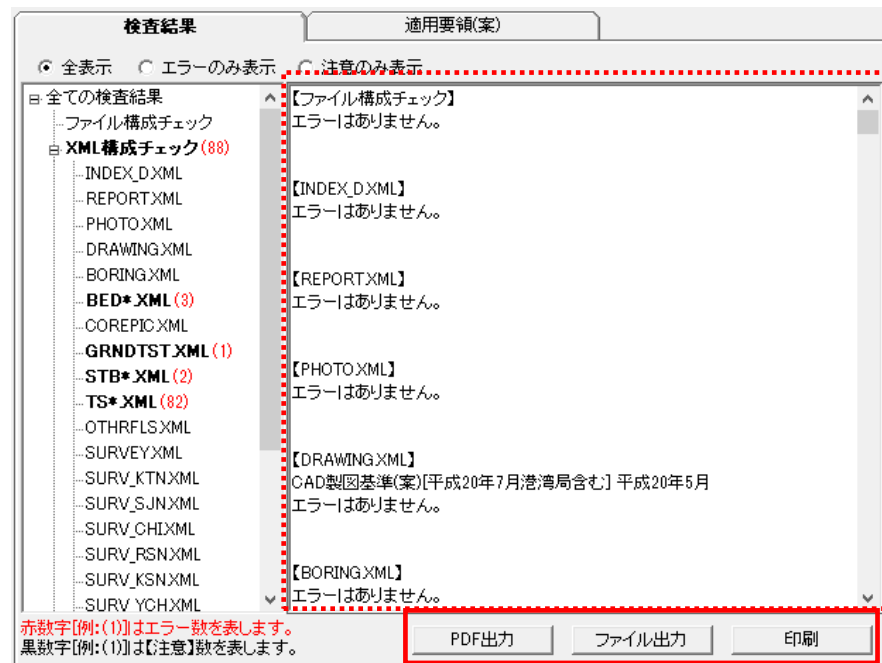
処理が完了しました。

OK



8. 検査結果の閲覧・保存（出力）・印刷

検査結果を画面上で確認します。結果を保存する場合は、[PDF出力] [ファイル出力]、印刷する場合は、[印刷] をクリックします。



3.電子納品チェックシステムの基本操作

本章では、チェックシステムの起動・終了方法、及び画面の構成について説明します。

3.1 電子納品チェックシステムの起動と終了

チェックシステムの起動及び終了方法を説明します。

操作手順

1. Windows の [スタート] ボタン⇒ [プログラム] ⇒ [岡山県電子納品チェックシステム] を選択します。

または、デスクトップに作成された [岡山県電子納品チェックシステム] のショートカットをダブルクリックで起動します。



2. メイン画面が表示されます。

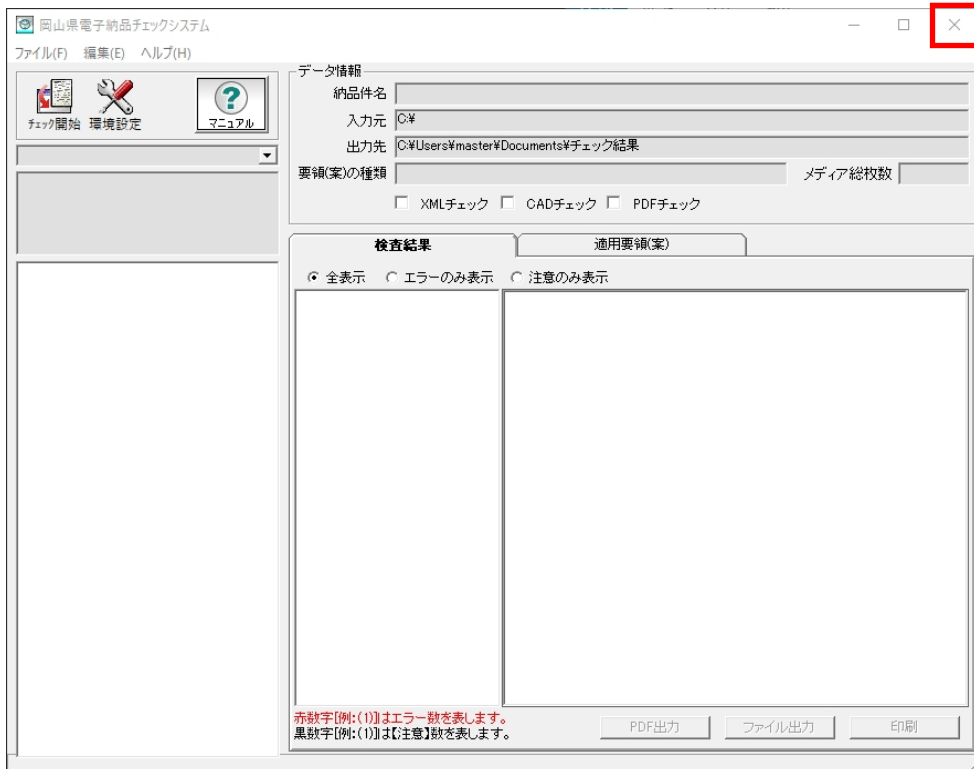


図 3-1

3. チェックシステムを終了するには、「×」ボタンをクリックします。

3.2 メイン画面構成

チェックシステムのメイン画面構成を説明します。

画面説明

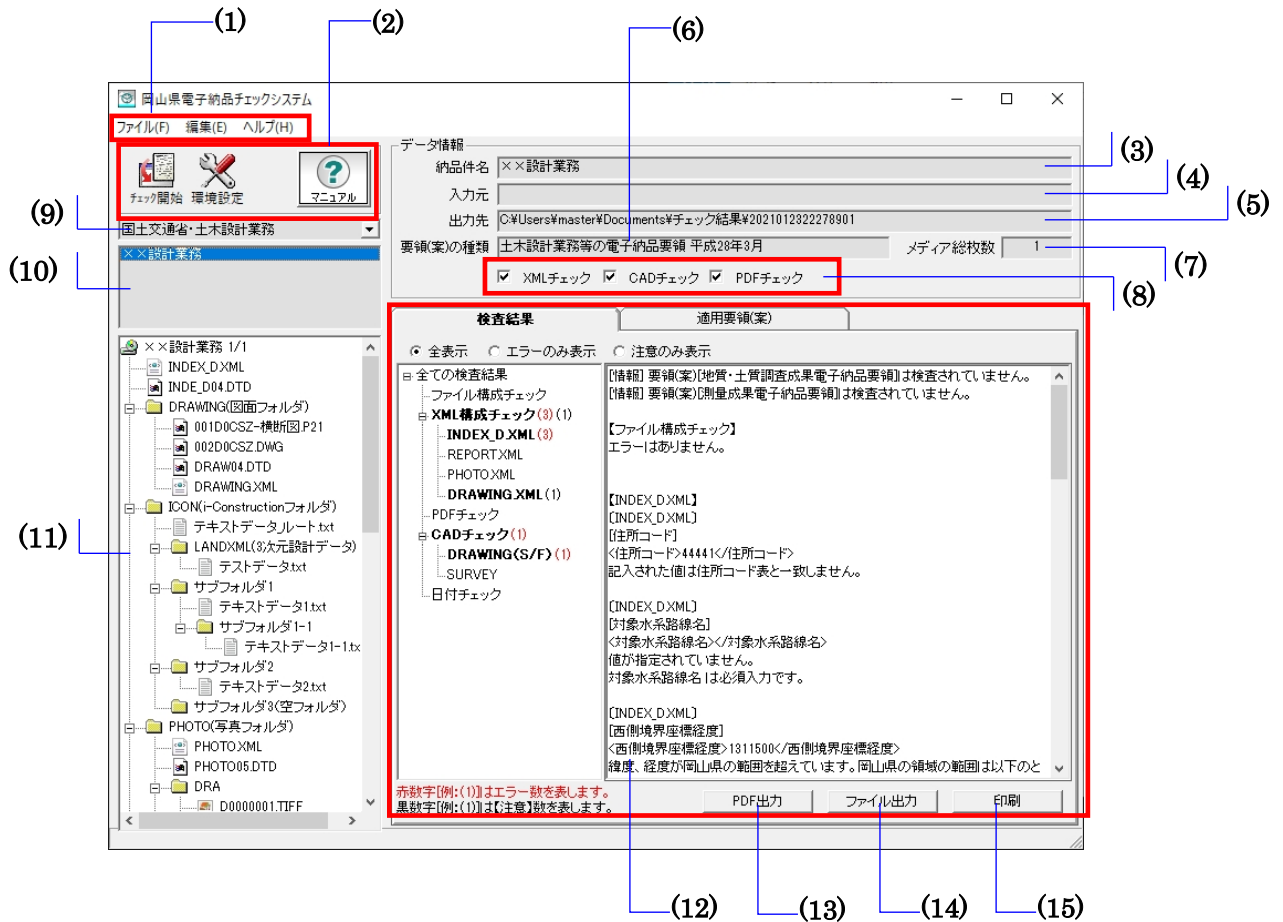


図 3-2

Notes

(1)メニューバー**■ファイル**（クリックすると以下の項目が表示されます。）

チェック開始——データの入力元を指定して検査を開始

PDF出力（表示、ファイル保存）——検査結果を帳票形式のPDFで表示・保存

ファイル出力——検査結果をテキスト形式、リッチテキスト形式で出力

印刷（印刷プレビュー、印刷）——検査結果を印刷プレビュー表示または印刷

終了——チェックシステムを終了

■編集（クリックすると以下の項目が表示されます。）

環境設定——環境設定画面を表示

検査操作ログ（全体検査ログ、成果品毎検査ログ）——検査操作ログを表示

■ヘルプ（クリックすると以下の項目が表示されます。）

操作マニュアル——本操作マニュアルを表示（PDF形式）

サポート情報——チェックシステムサポートページへのリンク

バージョン情報——チェックシステムのバージョン情報を表示

改訂履歴——ソフトの改訂履歴を表示

(2)ツールバー

チェック開始——データの入力元を指定して検査を開始

環境設定——環境設定画面を表示

マニュアル——操作マニュアルファイル（PDF）を起動

(3)納品件名

管理ファイルに記述されている“業務名称”や“工事名称”を表示します。

(4)入力元

環境設定で指定した「入力元」のパスを表示します。

(5)出力先

環境設定で指定した「出力元」のパスを表示します。

(6)要領（案）種類

適用する要領（案）の種類及び発表年度を表示します。

(7)メディア総枚数

納品された媒体の総枚数を表示します。

(8)処理状況表示

電子納品チェックシステムで処理した状況を表示します。処理した内容は、チェックが付きます。

XML チェック、CAD チェック、PDF チェックの処理を実行したかどうかを確認できます。

- ・以下は全ての処理を行ったことを示します。

XMLチェック CADチェック PDFチェック

- ・以下は XML チェックしか行っていないことを示します。

XMLチェック CADチェック PDFチェック

(9)成果品の種類の表示

データ入力によって読み込んだ電子成果品が対応する要領(案)の種類を表示します。

あるいは既存の検査結果がある場合、対応する要領(案)の種類を選択します。

(10)成果品の名称の表示

読み込んだデータの納品件名、あるいは選択された要領(案)の種類に既存の検査済の成果品データがある場合、その一覧を表示します。

(11)成果品のツリーの表示

読み込んだ成果品データあるいは選択した既存の検査結果データのファイル・フォルダツリーを表示します。

ツリーに表示されたファイルをダブルクリックすると、ファイルと関連つけているアプリケーションが起動し、ファイルを表示できます。

(12)検査結果・適用要領(案)表示

■検査結果

成果品データの検査結果を表示します。(検査後は常に「検査結果」のタブが優先に表示されます。)

検査結果表示領域には、検査結果分類ツリー部分と検査結果詳細表示部分に分かれます。

検査結果分類ツリー部分には、検査結果エラーの内容によって「ファイル構成チェック」、「XML 構成チェック」、「PDF チェック」、「CAD チェック」に分類されます。

検査結果詳細表示部分には、「ファイル構成チェック」、「XML 構成チェック」、「PDF チェック」、「CAD チェック」を選択した際に、それぞれ詳細エラー内容を表示します。

■適用要領(案)

検査に適用した各要領(案)と発表年月を表示します。

(13)PDF 出力

検査結果を帳票形式の PDF で表示または保存します。

(14)ファイル出力

検査結果をテキストファイル形式またはリッチテキスト形式で出力します。

(15)印刷

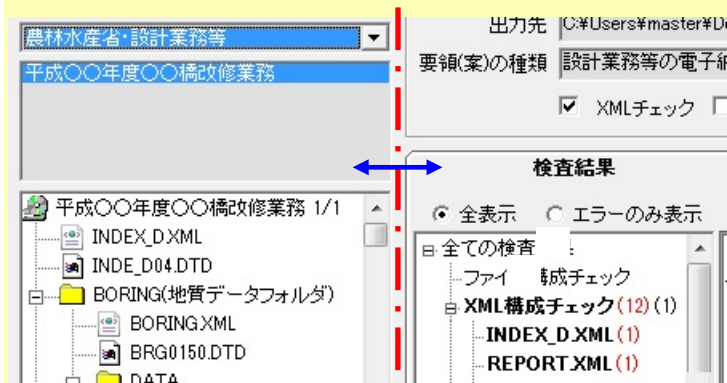
検査結果を印刷します。



Tips

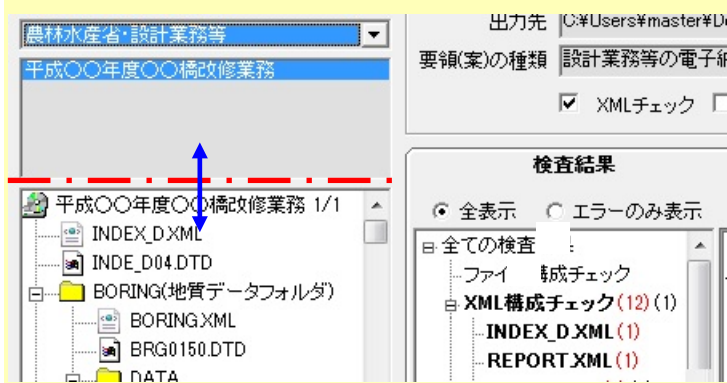
成果品の種類・名称・ツリー表示領域の幅を広くするには：

下図のように、左右を動かすことによって、幅を調整することができ、ツリーに表示される成果品データがより参照しやすくなります。



成果品の名称とツリー表示領域の高さを調節するには：

下図のように、上下を動かすことによって、高さの調整ができます。



4.電子納品チェックシステムで成果品の検査

チェックシステムで電子成果品を検査する方法について説明します。

チェックシステムは、環境設定によって、用途、効率に応じた検査が実現できますが、この章ではチェックシステムの初期設定（デフォルト設定）に基づいて、電子成果品の検査手順を説明します。

環境設定の変更方法に関しては、「5.環境設定」で紹介しています。

4.1 検査方法

検査手順について説明します。

操作手順

1. チェックシステムを起動します。
2. メイン画面の [チェック開始] をクリックします。

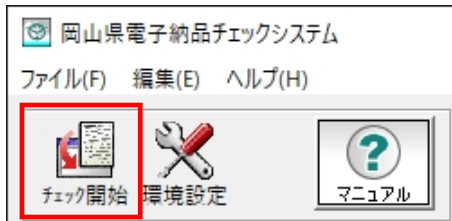


図 4-1

3. 「対応省庁の選択」画面が表示されますので、対応省庁をボタンをクリックします。
本マニュアルでは、国土交通省の成果品をサンプルとして説明します。

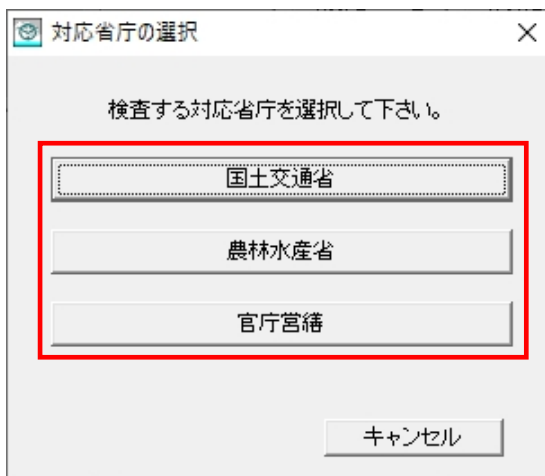
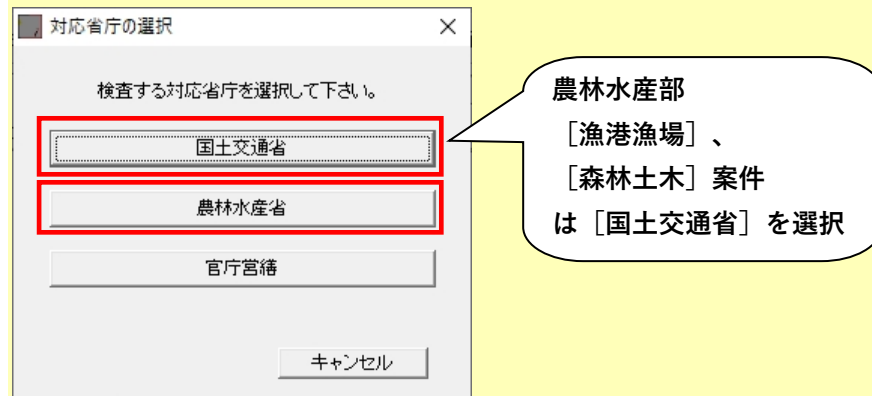


図 4-2



通常：土木部発注案件は〔国土交通省〕、農林水産部発注案件は〔農林水産省〕を選択します。

但し、**農林水産部 漁港漁場、森林土木**案件は〔国土交通省〕を選択してください。



4. 「検査する電子納品成果品の場所を指定します。(Step1)」画面が表示されます。リストから成果品を入れたドライブ名を選択し、〔次へ〕をクリックします。PC内にある成果品データを読み込む場合は、〔参照〕ボタンから「入力元指定」画面を表示し、成果品が格納されたフォルダを指定し、〔フォルダーの選択〕をクリックします。

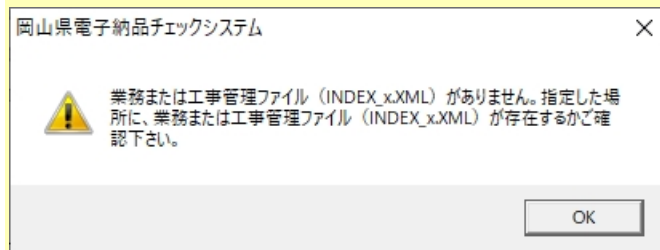


図 4-3

💡 Tips

指定した場所に、業務または工事管理ファイル (INDEX_x.XML) が存在しない場合、
下図エラーが出ます。

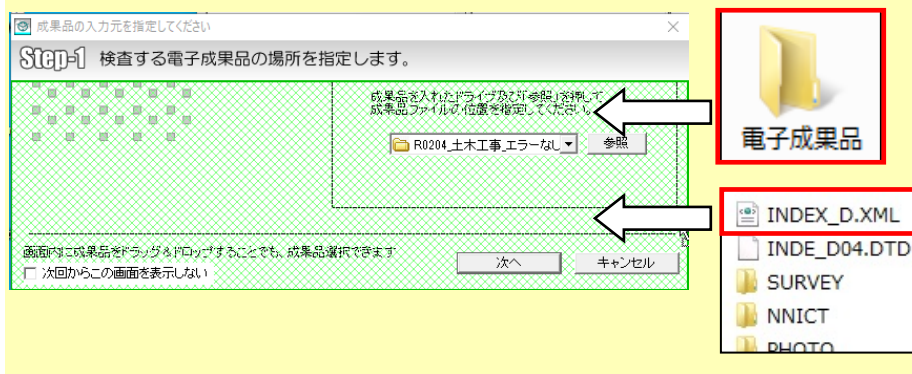
指定した場所に、業務または工事管理ファイルが存在するかご確認下さい。



💡 Tips

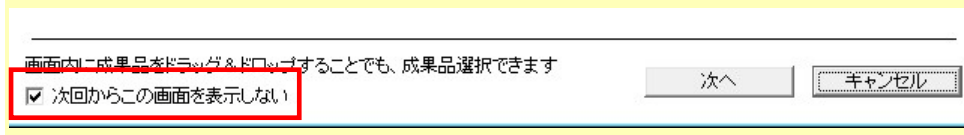
「成果品フォルダ」または「成果品フォルダ内の INDEX ファイル」を画面上の指定部分へドラッグ&ドロップすることでも、成果品選択ができます。

※成果品フォルダを画面上にドラッグして重ね、緑色になった部分にドロップしてください。



💡 Tips

Step-1 画面の [次回からこの画面を表示しない] にチェックを入れて検査を行うと、
次回の検査より Step-1 画面を省略できます。



5. 「検査実行条件を指定します。(Step2)」の画面が表示されます。
検査実行の条件を指定(変更)することができます。
[次へ]をクリックします。

検査条件を指定します

Step-2 検査実行条件を指定します。

10 報告書ファイルの最大サイズ(MB)

PDFチェック CADチェック

出力先 C:\Users\YTTTEST\Documents

フォルダ名 チェック結果 参照

次回からこの画面を表示しない

戻る 次へ キャンセル

図 4-4

**Tips**

Step-2 画面の [次回からこの画面を表示しない] にチェックを入れて検査を行うと、
次回の検査より Step-2 画面を省略できます。

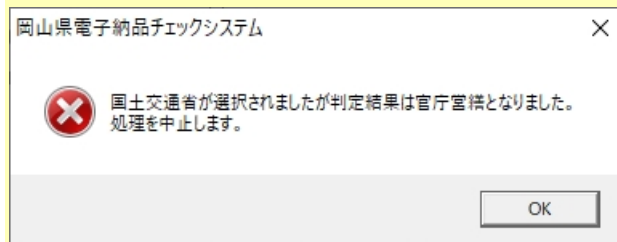
フォルダ名 チェック結果 参照

次回からこの画面を表示しない

戻る 次へ キャンセル

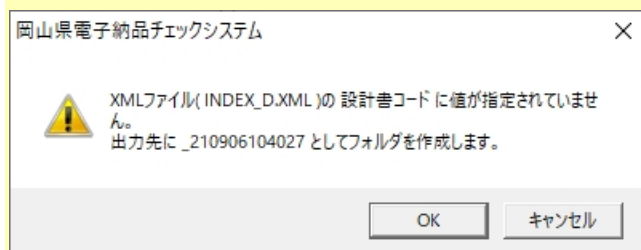


各種エラーメッセージについて：

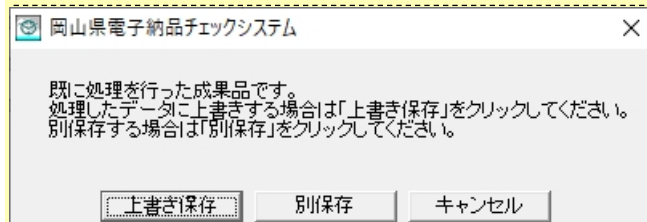


別省庁の電子成果品を誤って検査した場合に表示されます。

[OK] をクリックし、はじめから操作をやり直して下さい。



業務または工事管理ファイル (INDEX_x.XML) に設計書コード (工事番号) の記述がない場合に表示されます。成果品を識別するため、現在の“年月日時分秒”の組み合わせでフォルダを作成し、成果品の管理を行うことについての確認メッセージです。検査を続行する場合は [OK] を、中断する場合は [キャンセル] をクリックして下さい。



同じ電子成果品データを再度検査する場合に表示されます。

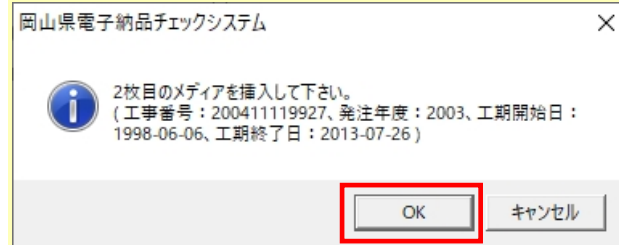
データを上書きする場合は [上書き保存] を、別保存する場合は [別保存] をクリックして下さい。別保存すると、成果品名称に「+再検査 n」が追加されます。

また、既に再検査で [別保存] を行った成果品に対し [上書き保存] をクリックすると、「今までチェックを行った複数回数の検査結果が全て削除されます。よろしいですか?」と確認メッセージが表示されます。データを上書きする場合は [上書き保存] をクリックして下さい (⇒再検査を含む全ての結果が削除され、新たな検査結果が作成されます)。別保存する場合は [いいえ] をクリックして下さい (⇒前のメッセージ画面に戻ります)。

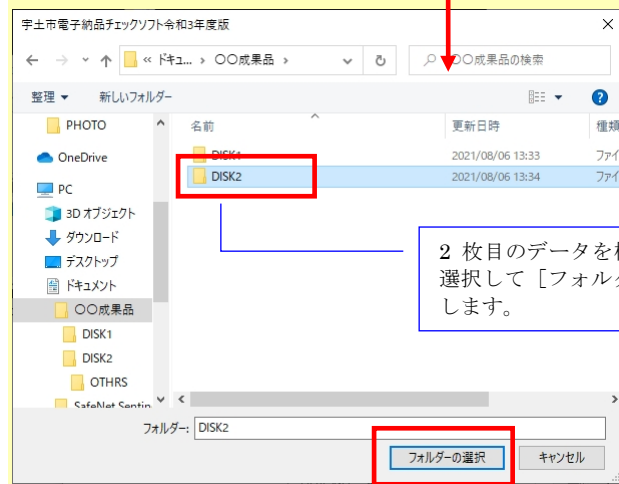
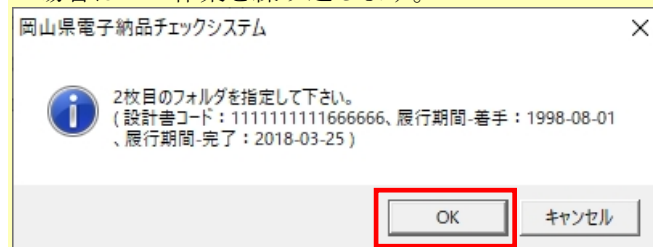


成果品が複数枚存在する場合：

複数メディアで構成されている場合は、処理途中で、メディアの入替を要求する画面が表示されます。ドライブのメディアを入れ替えてから [OK] をクリックします。



PC 内の成果品で複数枚に分かれている場合は、下図のような画面が表示されますので、[フォルダーの選択] を押し、2 枚目の成果品の場所を指定します。3 枚組以上の場合はこの作業を繰り返します。



6. 「Step-3 対応要領(案)及び検査するフォルダを指定します。」画面が表示されます。下図「A」にて、事前協議で定めた要領(案)の年月になっているか確認して下さい。下図「B」にて、検査しないフォルダがある場合、チェックをはずして下さい。確認後、[実行]をクリックします。

図 4-5

💡 Tips

Step-3 画面の [次回からこの画面を表示しない] にチェックを入れて検査を行うと、次回の検査より Step-3 画面を省略できます。

💡 Tips

検査する必要がないフォルダについては、「検査フォルダの指定」で、フォルダのチェック [☑] を外して下さい。



Tips

要領（案）の自動判別について：

Step-2で「次へ」をクリックすると、電子成果品がどの電子納品要領等に基づいて作成されているのかを自動判別します。

■自動判別ができた場合、

「要領（案）の選択」に、自動判別された要領（案）の年月が表示されます。

■自動判別できない場合

要領（案）のリストに、「選択して下さい」と表示されます。このとき「実行」ボタンはクリックできません。

「要領（案）の種類」等の「▼」をクリックして対応要領（案）を選択することで、「実行」ボタンがクリックできるようになります。


但し、岡山県準拠の要領（案）年月以外で作成されている可能性が高いです。

デジタル写真管理情報基準(案)

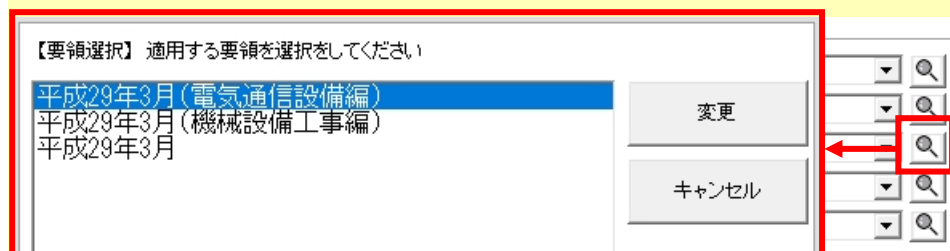
選択してください



Tips

要領（案）の手動選択は、「▼」をクリックしての選択する他に、リストボックス横の参照ボタン  から選択可能です。

要領選択後、「変更」ボタンをクリックして下さい。



 Tips

フォルダに XML が存在しない場合（元々成果品フォルダが存在しない場合含む）、

“XML ファイルが存在しません” とメッセージが表示されます。

この場合、要領（案）を選択せず [実行] をクリックして下さい。

要領(案)の選択	
要領(案)の種類	土木設計業務 平成28年8月
デジタル写真管理情報基準	平成28年8月
CAD製図基準	平成29年8月
地質・土質調査成果電子納品要領	XMLファイルが存在しません
測量成果電子納品要領	XMLファイルが存在しません

ただし、BORING、SURVEY のフォルダに、BORING.XML、SURVEY.XML がなくても、サブフォルダである BORING¥TEST や SURVEY¥KASEN 等に GRNDTST.XML、SURV_KSN.XML 及びデータが存在する場合、ここで、要領（案）を選択すると、サブフォルダ以下が検査できるようになります。

7. 「検査の実行」画面が表示されます。

検査の進行状態が表示されます。

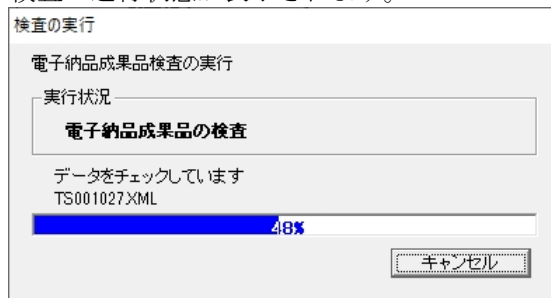


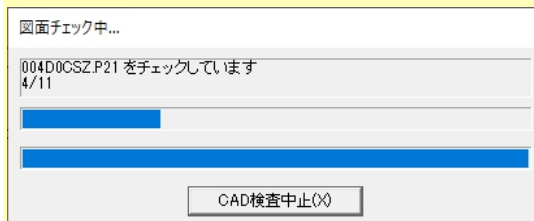
図 4-6



Tips

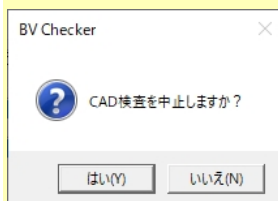
■処理を中止する場合は、上図の「キャンセル」をクリックして下さい。

■CADデータのチェック中にも、以下の進捗画面が表示されます。



CADチェックを中止する場合は、[CAD 検査中止]ボタンをクリックします。但し、現在チェックしているファイルが終了するまで、中止できません。

以下の確認のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。



8. 検査終了後、処理完了画面が表示されますので、[OK]をクリックします。

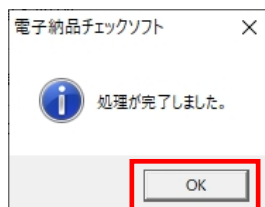


図 4-7

9. 「検査結果」が表示されます。

❖ 参照：検査結果に関しては、【4.2検査の結果】を参照して下さい。

4.2 検査の結果

検査の結果について、その見方を説明します。

検査の結果として「検査結果」、「適用要領(案)」の2つのタブに内容が記述されます。

検査が完了すると、「検査結果」のタブが優先に表示されます。

また、メイン画面上では、「納品件名」に管理ファイルに記述されている業務名称や工事名称が表示され、要領(案)種類と策定年月、及びメディア総枚数などの情報も確認できます。

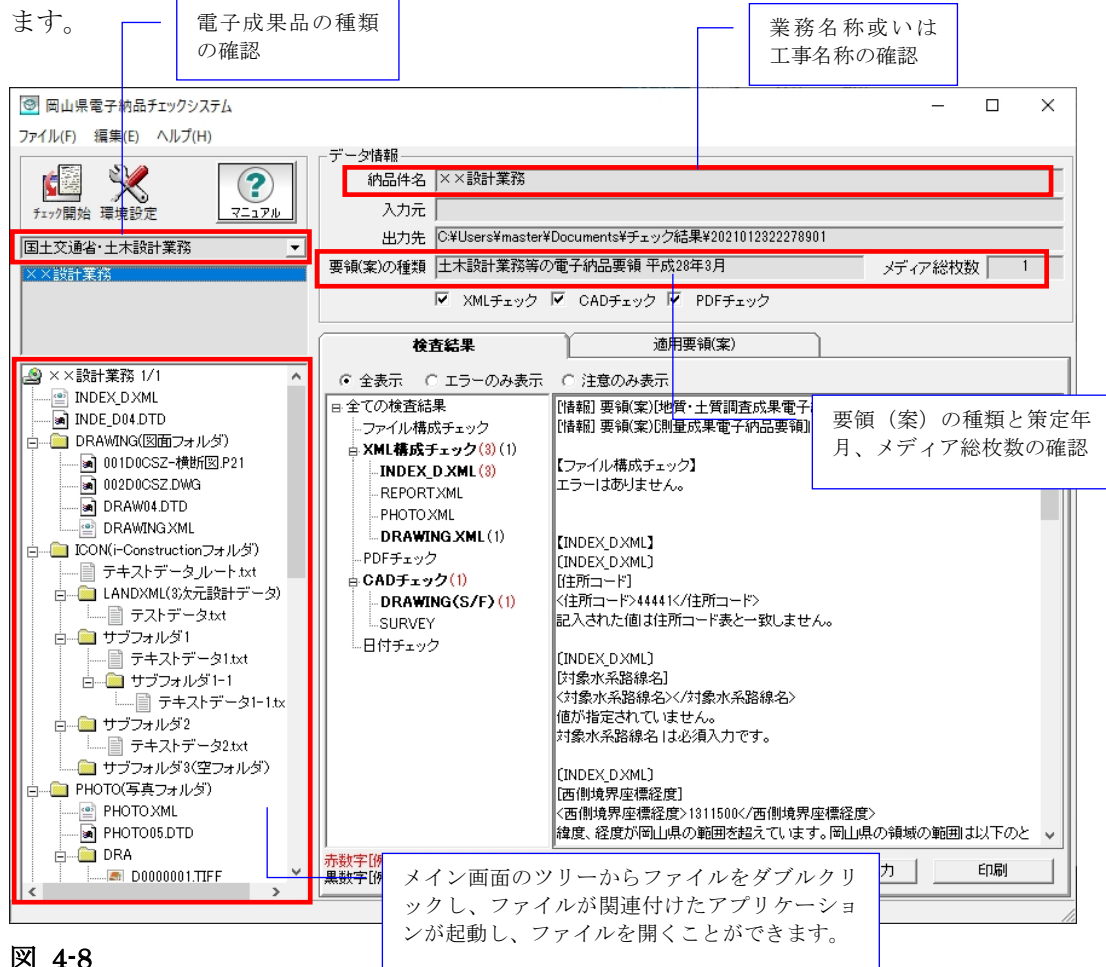
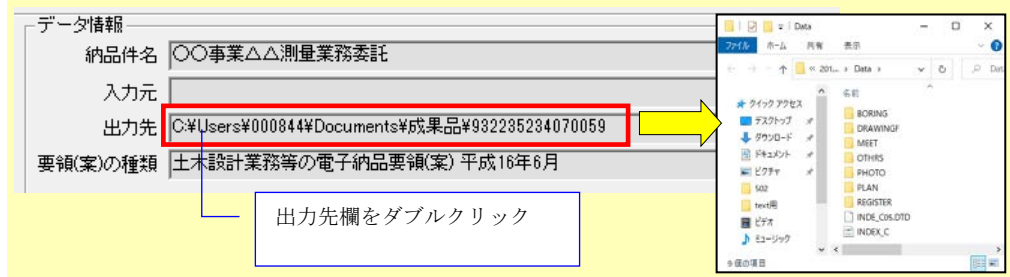


図 4-8



出力先欄をダブルクリックすると、出力先成果品フォルダが開きます。



4.2.1 検査結果のタブ

「検査結果」のタブには、検査結果分類ツリーを表示する部分と検査結果の詳細内容を表示する部分の2つの部分があります。

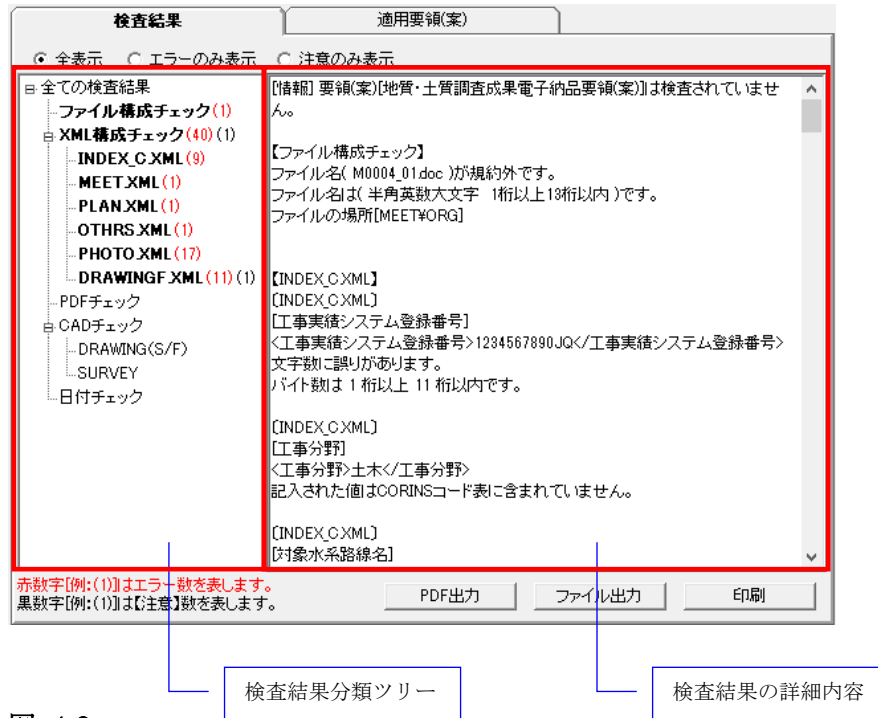


図 4-9

(1) 検査結果分類ツリー（検査結果タブの左側部分）：

検査結果分類ツリーを表示する部分には、検査結果はエラー（注意）の種類によって、「ファイル構成チェック」、「XML 構成チェック」、「PDF チェック」、「CAD チェック」に分類して表示されます。※日付チェックは、通常使用しません。

エラーのある項目は太字で表示されます。

- ファイル構成チェックは、実ファイルやフォルダ名に不具合がある場合、そのエラー件数あるいは注意件数を表示します。
- XML 構成チェックは、各 XML ファイルの記述に不具合がある場合、そのエラー件数と注意件数を表示します。
- PDF チェックは、報告書の PDF データに不具合がある場合、そのエラー件数を表示します。
- CAD チェックは、CAD データ（P21、SFC）に不具合がある場合、そのエラー件数あるいは注意件数を表示します。
- 日付チェックは、「実ファイルの更新日時と INDEX の工期範囲情報」や「JPG ファイルの EXIF 情報とファイル更新日時」に不整合がある場合、そのエラー件数を表示します。

検査結果分類ツリーの「ファイル構成チェック」や「XML 構成チェック」等に、エラー件数と注意件数を分別して表示します。

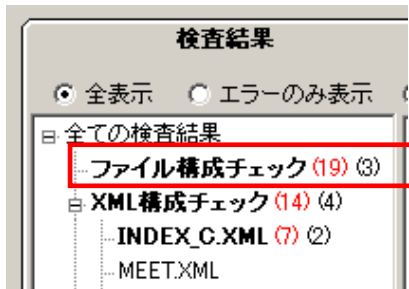


図 4-10

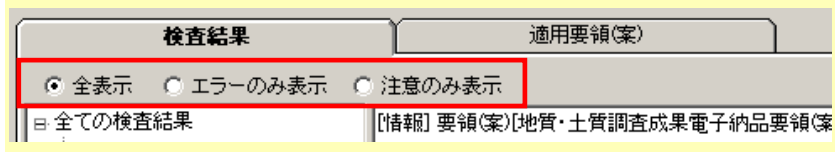
上図の例「ファイル構成チェック(19)(3)」では、ファイル構成チェックに、エラー19件、注意3件があることを示します。エラーは赤字、注意は黒字で表示します。



Tips

「全表示」「エラーのみ表示」「注意のみ表示」の選択について

初期設定では、全表示（エラーと注意の両方を表示する）が選択されていますが、「エラーのみ表示」または「注意のみ表示」を選択すると、「エラー」「注意」のどちらか一方のみを表示することができます。



(2) 検査結果の詳細内容（検査結果タブの右側部分）：

検査結果分類ツリーにある「ファイル構成チェック」、「XML 構成チェック」、「PDF チェック」、「CAD チェック」、「日付チェック」の各項目を選択した際に、それぞれの詳細エラー内容を表示します。

全ての検査内容を表示するには、ツリー階層最上部にある [全ての検査結果] を選択します。

1) ファイル構成チェック

ファイル構成チェックでは、ファイル構成に関するエラー、注意が表示されます。

例：

- ファイル名が半角英数大文字、13 桁以内になっていない規約外のファイルが含まれている場合
- 工事または業務管理ファイル（INDEX_x.XML）にフォルダ名が記述されているが、成果品内にそのフォルダが存在しない場合

また、「ファイル構成チェック」でファイル・フォルダ名にエラーがある場合、成果品構造ツリーに赤い「×」印が表示されます。

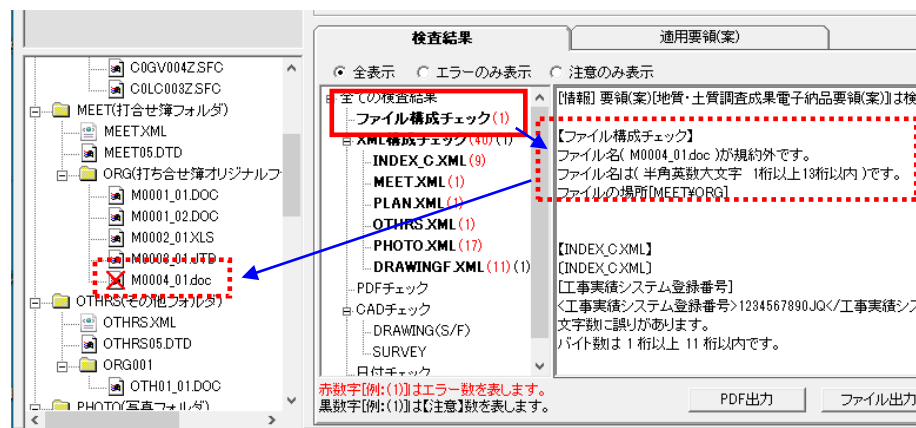


図 4-11

2)XML 構成チェック

XML 構成チェックでは、各 XML ファイル（管理ファイル）の記載内容についてのエラー、注意が表示されます。

例：

- 全角数字、半角カタカナ等の禁則文字を使っている場合
- 必須項目に入力がない場合

「XML 構成チェック」を選択すると、全ての XML に含まれるエラー、注意が表示されます。また、各 XML 名称（例：DRAWING.XML）を選択した場合、選択した XML に含まれるエラー、注意が表示されます。

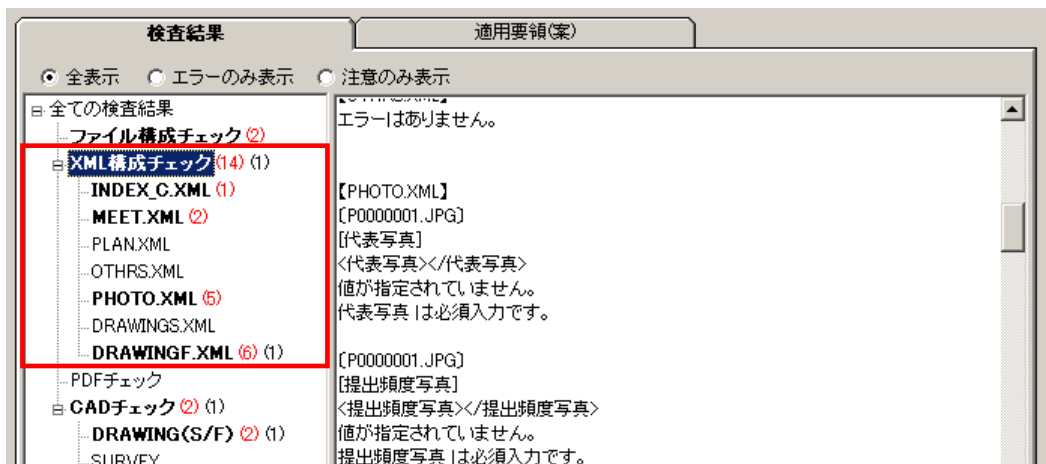


図 4-12

XML 構成チェック結果の見方：

例：PHOTO.XML で必須項目に入力がない場合の検査結果

- | |
|-------------------------------------|
| (1) :【PHOTO.XML】 |
| (2) : [P0000001.JPG] |
| (3) : [代表写真] |
| (4) : <代表写真>/>代表写真> |
| (5) : 値が指定されていません。
代表写真 は必須入力です。 |

(1)——対象の XML を表します。

(2)——XML に登録されているファイル名を表します。

ただし、業務管理ファイル（INDEX_D.XML）あるいは工事管理ファイル（INDEX_C.XML）の場合、ファイルの登録がありませんので、管理ファイル名が再度表示されます。

(3)——XML 内の要素名を表します。

(4)——XML 内で、実際に記入されている内容を表示します。

(5)——エラーの内容および記入規則を表示します。

3) 「PDF チェック」

報告書 PDF ファイルの内容について検査した結果が表示されます。

このチェックは、業務成果品の REPORT フォルダ（報告書フォルダ）直下の報告書 PDF ファイルに対してのみ行われます。その他のフォルダにある PDF については、チェックされません。

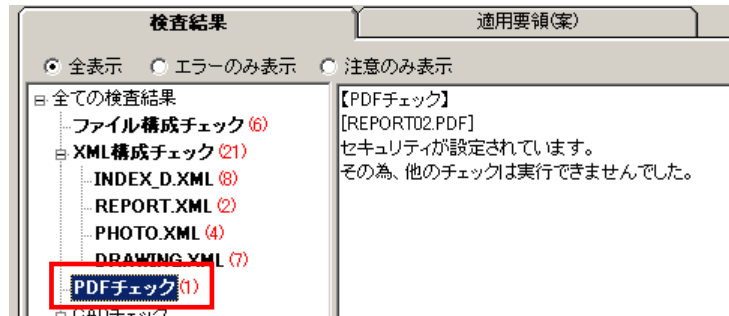


図 4-13

PDF チェック結果の見方：

例：REPORT02.PDF という報告書をチェックした場合の検査結果

- (1) : [REPORT02.PDF]
 (2) : セキュリティが設定されています。
 その為、他のチェックは実行できませんでした。

- (1)——ファイル名を表します。
 (2)——エラーの内容を表示します。

4) 「CAD チェック」

CAD ファイルの検査結果が表示されます。

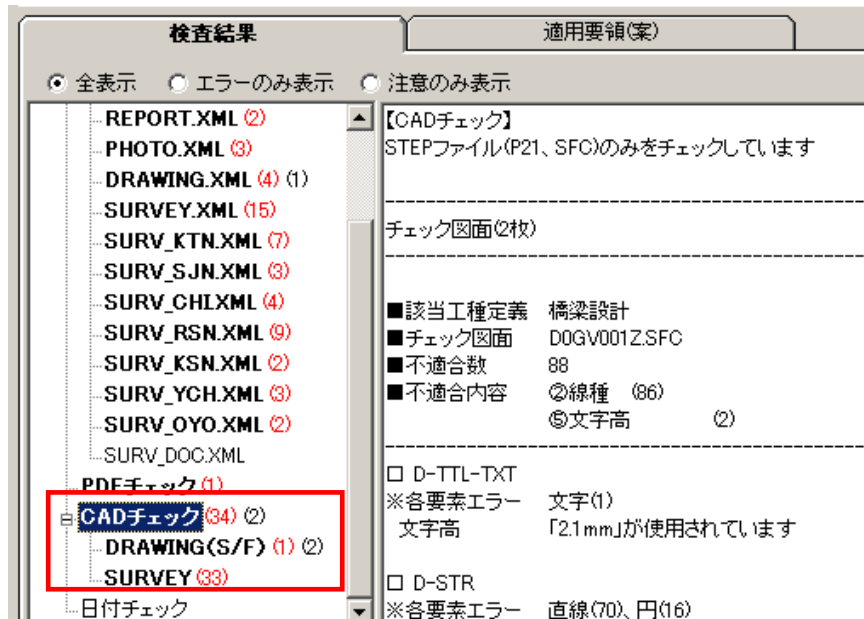


図 4-14

DRAWING (S/F) の CAD チェック結果の見方：

例：D0GV001Z.SFC という図面をチェックした場合の検査結果

(1) : ■該当工種定義 橋梁設計	
(2) : ■チェック図面 D0GV001Z.SFC	
(3) : ■不適合数 88	
(4) : ■不適合内容 ②線種 (86) ⑤文字高 (2)	

(5) : □D-TTL-TXT	
(6) : ※各要素エラー 文字(1)	
(7) : 文字高 「2.1mm」が使用されています	

- (1)——該当工種を表します。
- (2)——ファイル名を表します。
- (3)——ファイル全体で、エラーまたは注意となった不適合数を表します。
- (4)——不適合内容と、不適合となった要素数の内訳を表示します。
- (5)——チェック対象のレイヤ名を表示します。
- (6)——該当レイヤで、エラーまたは注意の種類と要素数を表示します。
- (7)——エラーの内容を表示します。



エラー及び注意が存在する図面に対しての朱書き機能について

検査後、エラーのある図面に朱書きを行った図面を出力します。

朱書きファイルは成果品の出力先フォルダと同じ階層に「〇〇〇※朱書き CADfile」フォルダを作成し、「marked 対象図面ファイル名.sfc」の名称で作成されます。

※〇〇〇は工事番号もしくは、設計書コード

※出力するか否か、出力される形式は環境設定で設定できます。

検査結果表示の最下部に以下例のように、出力先が記載されます。

CAD朱書きファイルは
C:\Documents and Settings\000755\My Documents\チェック結果\2005001061002
朱書きCADfile\
に出力されました。

検査結果に朱書きの内容が表示されます。

該当工程定義 橋梁設計
 チェック図面 DOTS001.K.P21
 不適合数 8
 不適合内容
 ①色 (1)
 ②線種 (1)
 ③線幅 (1)
 ④禁則文字 (1)
 ⑤文字高 (6)
 線の太さが1:2:4の比率になっていません

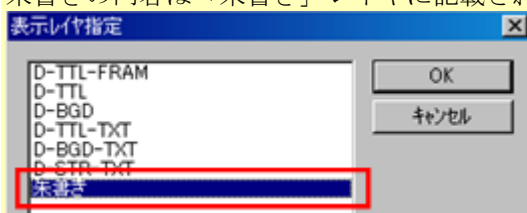
 D-BGD
 ※各要素エラー 直線(1)
 色 「ユーザー定義色 色24 RGB(0, 127, 31)」が使用されています、正しい色は「白」です。
 線種 「一点鎖線」が使用されています、正しい線種は「実線」です。
 線幅 「ユーザー定義線幅 0.53 (0.53mm)」が使用されています。

 D-TTL-TXT
 ※各要素エラー 文字(3)

○数字は、朱書きされた内容
例：④は禁則文字、⑤は文字高
さが違反している文字に対し、
図面に朱書きされる
(下図参照)

markedDOTS001.K.sfc - SXFブラウザ
ファイル(F) 表示(V) ヘルプ(H)
出力用紙 4、5

朱書きの内容は「朱書き」レイヤに記載されます。



朱書き番号とエラー内容の凡例：

朱書きは以下の 5 種類のエラーが検出された際に、自動的に行います。

朱書き番号	エラー内容	説明
①	色	各レイヤに規定されている色と違う場合
②	線種	各レイヤに規定されている線種と違う場合
③	線幅	要領(案)に規定されている線幅と違う場合
④	禁則文字	禁則文字が使用されている場合
⑤	文字高	要領(案)に規定されている文字高さ違う場合



CAD の検査結果に、エラーと注意が両方存在する場合のカウントは、以下のようになります。

ファイル名	チェック結果	エラーカウント	注意カウント
ファイル1	エラーあり、注意あり	1	1
ファイル2	エラーあり、注意なし	1	0
ファイル3	エラーなし、注意あり	0	1
結果出力		2	2

この場合、検査結果の画面上では、次のように出力されます：**CAD チェック (2) (2)**

SURVEY の CAD チェック結果の見方：

例：KJAD1001.P21 という図面をチェックした場合の検査結果

- | |
|---|
| (1) : ■チェック図面 KJAD1001.P21 |
| (2) : レイヤ名 [S-SUV-SRVRXXX] は 基準(案)・要領(案)のレイヤ名に適していません |

(1)——ファイル名を表します。

(2)——エラーの内容を表示します。

SURVEY レイヤチェックについて SURVEY フォルダ内の CAD ファイルのレイヤ名のみチェックしています。CAD ファイルに関するその他のチェックは行いません。

5) 「日付チェック」

「実ファイルの更新日時と INDEX の工期範囲情報」や「JPG ファイルの EXIF 情報とファイル更新日時」に不整合があるかどうか検査した結果が表示されます。

日付チェックは、通常使用しません。このチェックは、環境設定画面の日付チェック設定を ON にした場合のみチェックされます。

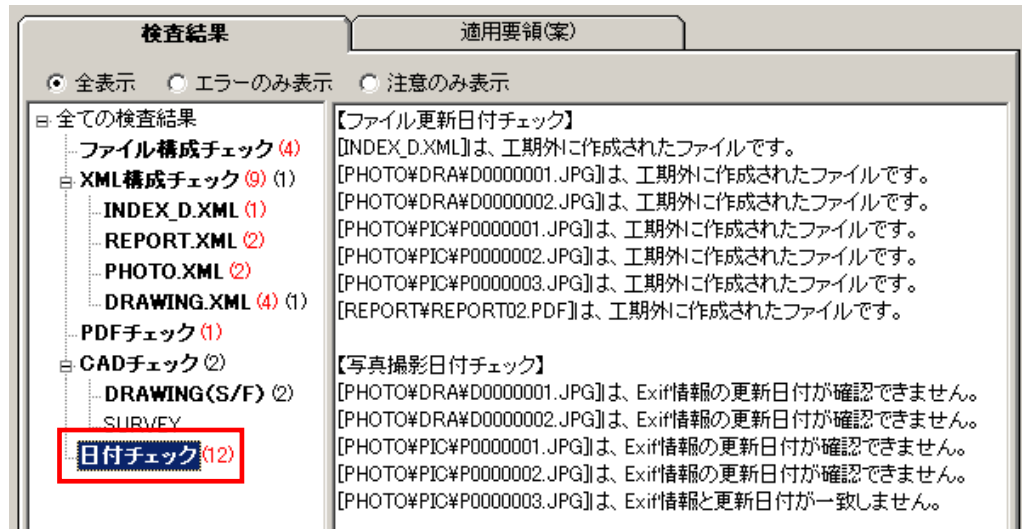


図 4-15

日付チェック結果の見方：

例：P0000001.JPG という写真をチェックした場合の検査結果

(1) : [PHOTO#PIC#P0000001.JPG]は、Exif情報と更新日付が一致しません。

(1)——該当するファイルパスと、エラーの内容を表示します。

6)フォルダ毎のファイル数集計

環境設定で「フォルダ毎のファイル集計を出力する」にチェックを付けておくと、検査結果画面最下部にフォルダ毎のファイル数が表示されます。

該当要領（案）で規定されたフォルダ名が表示され、それぞれのフォルダ内の格納ファイル数が集計されます。

フォルダ・ファイルがない場合は、グレーで表示されます。

適用要領(案)		
注意のみ表示		
[フォルダ毎のファイル数集計]		
[1/2]		
ルートと規定フォルダ以外	:	2
REPORT(報告書)	:	4
REPORT#ORIG(報告書オリジナル)	:	8
DRAWING(図面)	:	0
PHOTO(写真)	:	2
PHOTO#PIC(写真)	:	3
PHOTO#DRA(参考図)	:	2
SURVEY(測量)	:	0
SURVEY#K ITEN(基準点測量サブ)	:	0
SURVEY#SUI JUN(水準測量サブ)	:	0
SURVEY#CHIKI(地形測量サブ)	:	0
SURVEY#ROSEN(路線測量サブ)	:	0
SURVEY#KASEN(河川測量サブ)	:	0
SURVEY#YOUCI(用地測量サブ)	:	0
SURVEY#DOC(ドキュメントサブ)	:	0
BORING(地質データ)	:	0
BORING#DATA(ボーリング交換用データ)	:	0
BORING#LOG(電子柱状図)	:	0
BORING#DRA(電子縮略柱状図)	:	0
BORING#PIC(コア写真)	:	0
BORING#TEST(土質試験及び地盤調査)	:	0
BORING#OTHR(その他の地質調査資料)	:	0
1枚目 合計	:	21

図 4-16



フォルダ毎のファイル集計を出力するには [環境設定] - [オプション設定] タブにある「フォルダ毎のファイル集計を出力する」にチェックをつけて下さい。

JPEGファイルEXIF日付チェックを行う

フォルダ毎のファイル集計を出力する



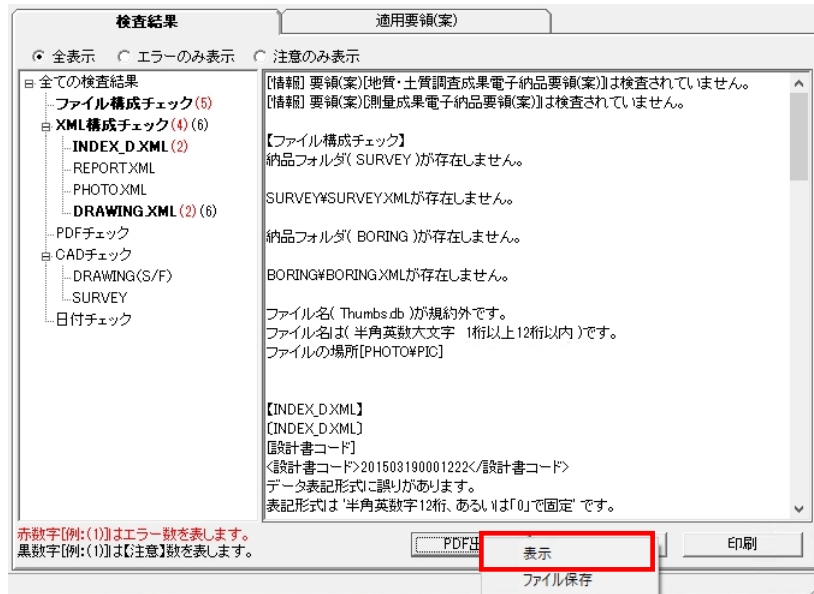
複数枚成果品の場合、全メディアの総ファイル数合計が、最下部に表示されます。

BORING#OTHR(その他の地質調査資料)	:	0
2枚目 合計	:	6
総ファイル数 合計	:	27

(3) 検査結果の出力（検査結果タブの右下部分）：

1) 検査結果を出力（pdf 帳票形式）

検査結果を帳票形式の PDF で表示する場合、[PDF 出力] をクリックし、メニューから [表示] をクリックします。



帳票形式の PDF 画面が表示されます。

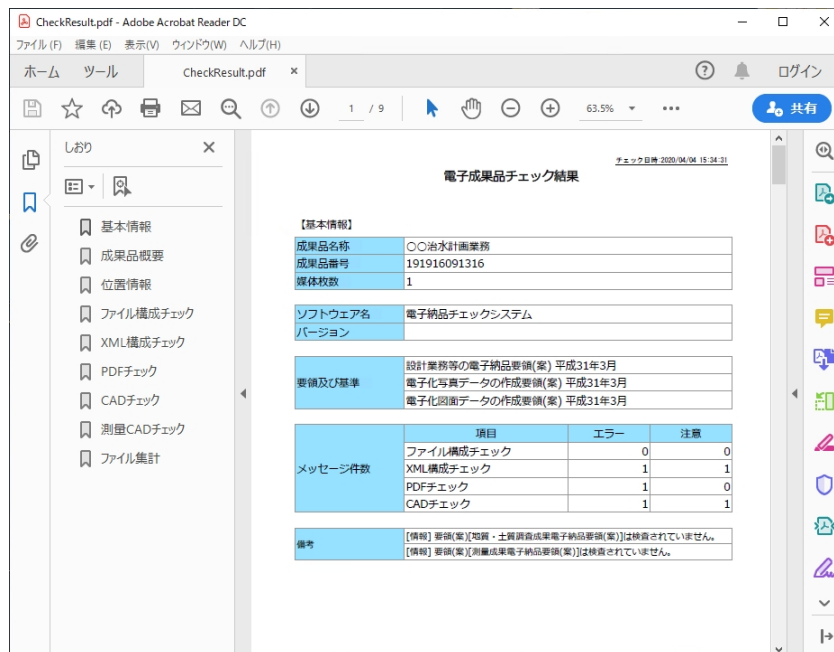
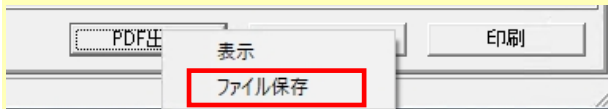


図 4-17

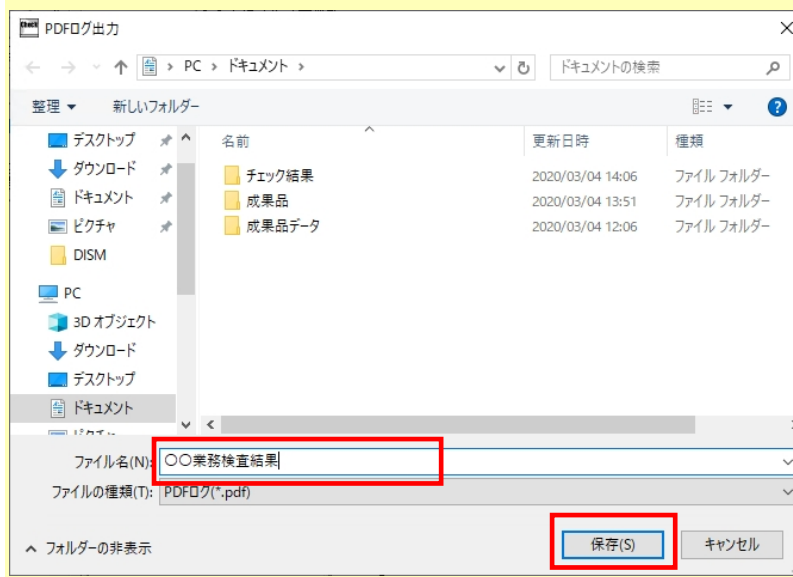
以降の操作は、端末にインストールされている Adobe Reader または Acrobat の操作と同様です。



PDF ファイルの表示ではなく、ファイル保存する場合は [PDF 出力] をクリックし、メニューから [ファイル保存] をクリックして下さい。



PDF ファイルの保存画面が表示されますので、任意のファイル名・保存場所を設定し、[保存] をクリックして下さい。



しおりについて:

PDF 画面のしおりをクリックすることで、該当の検査結果を表示できます。

しおり

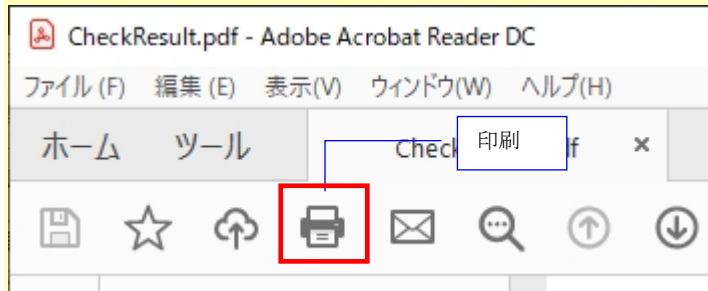
- 基本情報
- 成果品概要
- ファイル構成チェック
- XML構成チェック
- PDFチェック
- CADチェック
- 測量CADチェック
- ファイル集計

【成果品概要】

項目	記載内容
メディア総枚数	1
適用要領基準	農村振興土木201103-01
業務実績システムバージョン番号	4.0
業務実績システム登録番号	3000041690
設計書コード	0420111888100
業務名称	平成〇〇年度〇〇橋改修業務
住所コード	99999
住所	住所
履行期間-着手	2010-04-01
履行期間-完了	2011-03-31
測地系	01
西側境界座標経度	1383780
東側境界座標経度	1384500
北側境界座標緯度	0352500
南側境界座標緯度	0352000
発注者機関コード	04006007
発注者機関事務所名	〇〇農政局土地改良技術事務所
受注者名	受注者名

 Tips

Adobe Reader または Acrobat のメニューボタン等から、印刷が行えます。



※操作方法は、お使いの Adobe 製品のバージョンにより異なります。

2) 検査結果を出力 (txt 形式、rtf 形式)

検査結果をファイルに出力する場合、[ファイル出力] をクリックします。

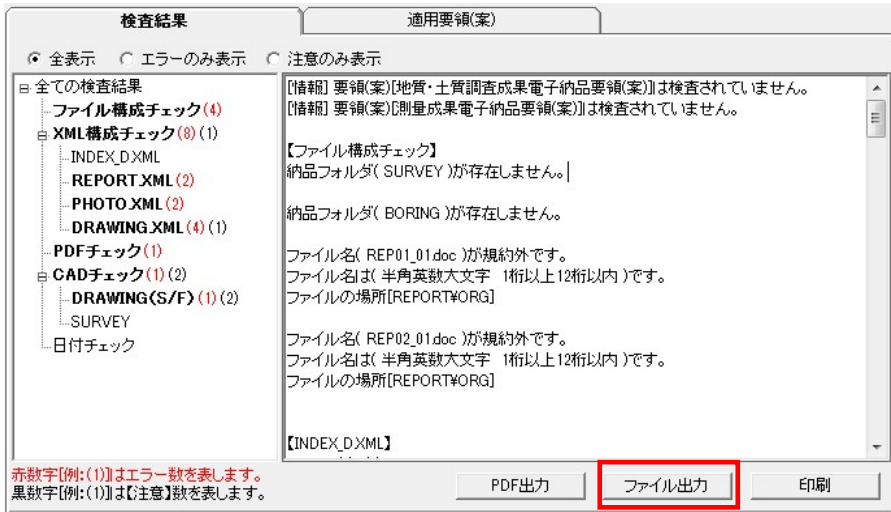


図 4-18

「エラーログ出力」画面が表示されますので、保存場所及びファイル名を入力し [保存] をクリックすると、指定した場所に検査結果ファイルが出力されます。

出力できる形式は、テキスト形式 (*.txt) とリッチテキスト形式 (*.rtf) です。リッチテキスト形式で出力された場合は、太字や色付き文字がそのまま出力できます。

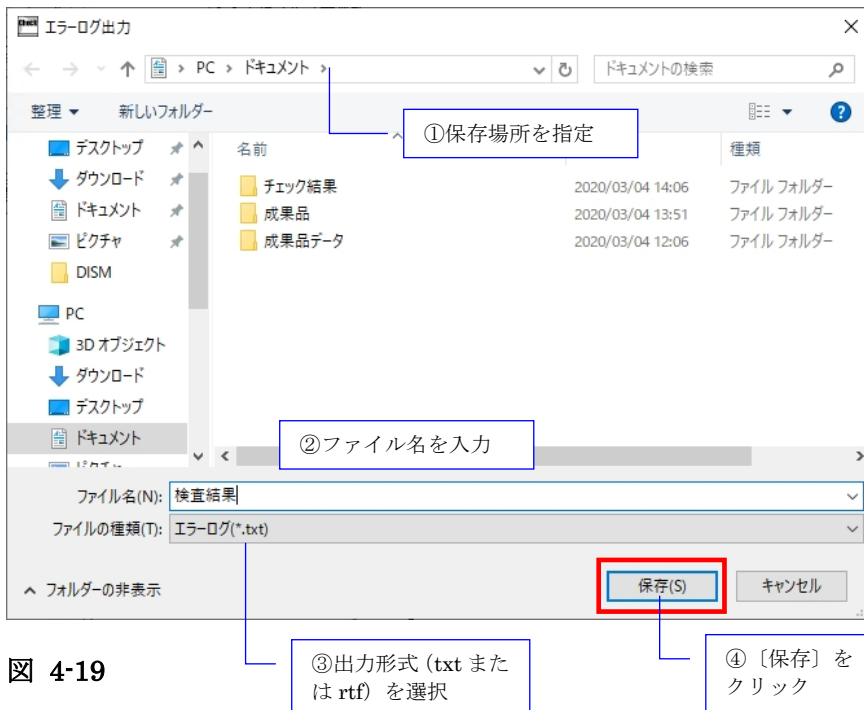


図 4-19

(4) 検査結果のプレビュー

[印刷] をクリックし、メニューから [印刷プレビュー] をクリックすると、プレビュー画面が表示され、画面で印刷状態を確認することができます。プレビュー画面から印刷することもできます。

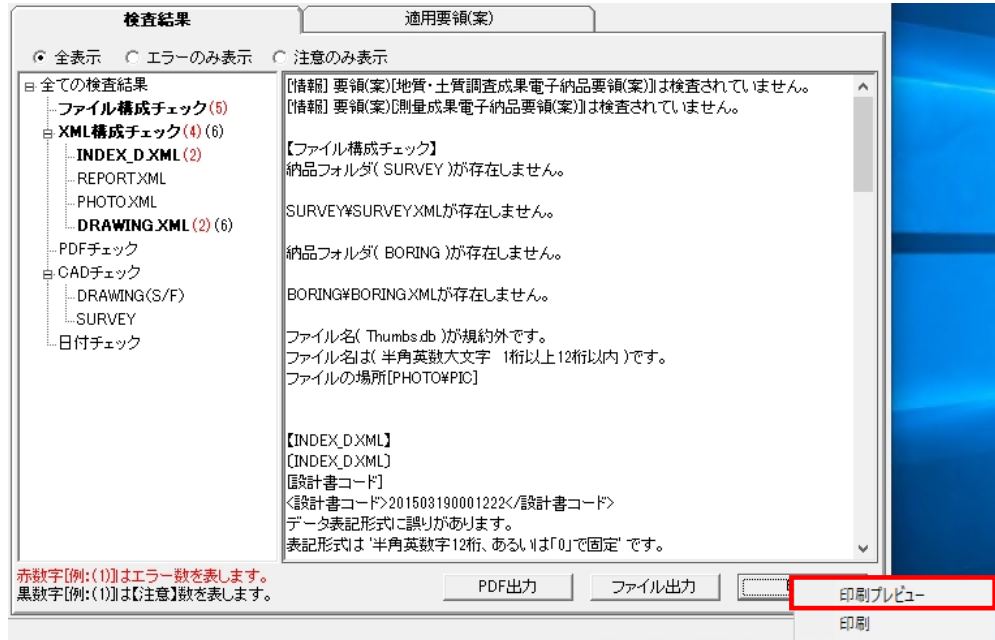


図 4-20

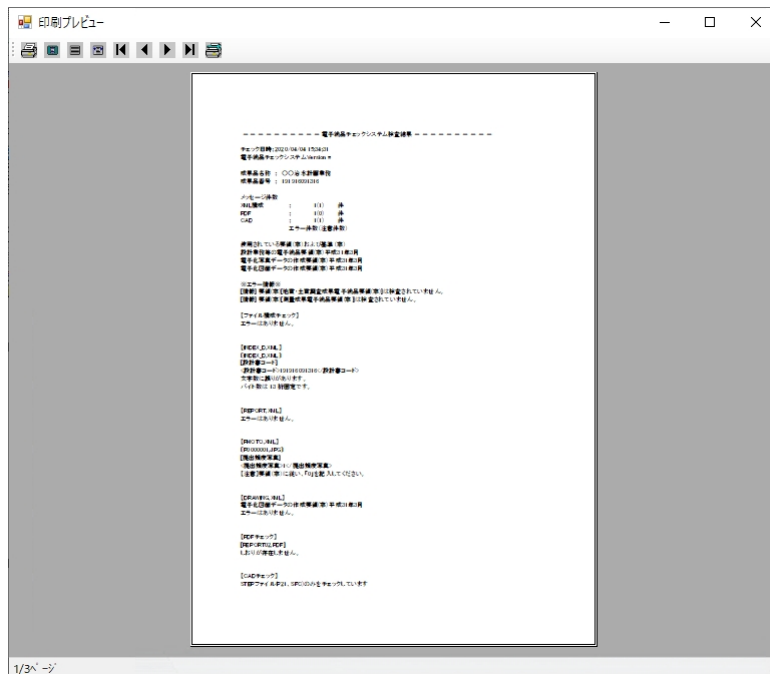


図 4-21

【ボタンの説明】

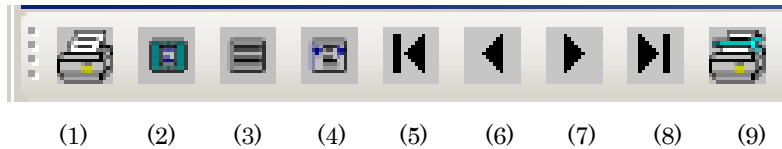


図 4-22

- (1) 印刷します—印刷処理を開始します
- (2) 全体表示をします—ページ全体が表示されるように画面調整します
- (3) 100%表示します—プレビュー画面いっぱいに拡大表示します
- (4) 横幅基準にて表示します—ウィンドウの横幅に合わせて画面調整します
- (5) 最初のページに移動します—1枚目を表示します
- (6) 1ページ戻ります—前ページを表示します
- (7) 1ページ進みます—次ページを表示します
- (8) 最終ページに移動します—最終ページを表示します
- (9) 印刷設定をします—印刷設定画面を表示します

(5) 検査結果の印刷

検査結果の印刷する場合、[印刷] をクリックし、メニューから [印刷] をクリックすると、プリンタ設定画面が表示され、設定終了後、「印刷」をクリックすると、検査結果が印刷されます。

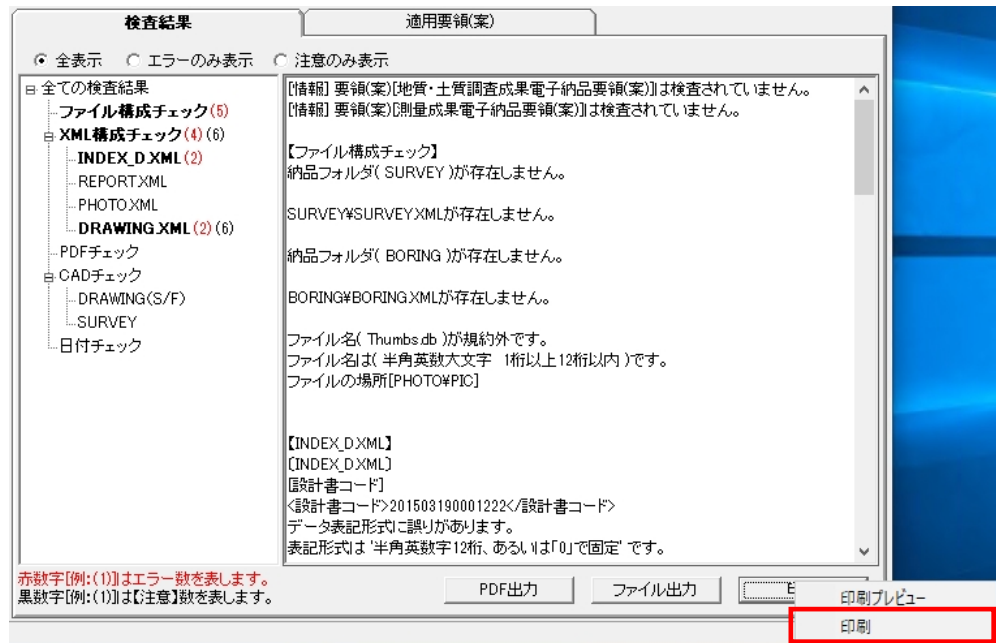


図 4-23

！ 注意

ファイル出力及び印刷は、検査結果分類ツリーで選択されている内容がそのまま出力されます。全てのエラー内容を出力する場合は、必ず [全てのログ] を選択してから行って下さい。

また、検索結果タブにある「エラーのみ表示」「注意のみ表示」を選択することで、エラーのみまたは注意のみを出力することができます。エラーと注意の両方を表示する場合は「全表示」を選択して下さい。

💡 Tips

検査結果の詳細内容に表示できる件数について

検査結果の詳細内容に表示できるエラーの件数はおよそ 20000 件までです。

環境設定で、「検査を中断するエラー件数」のオプションに [制限しない] と設定しても、検査結果の表示やパソコンの処理能力を考慮し、エラー件数が 20000 件に達しますと、メッセージを表示し、自動的に検査が中断されます。但し、20000 件までのエラー結果は詳細内容に表示されます。

4.2.2 適用要領（案）情報

適用要領（案）タブをクリックすると、検査に適用した各要領（案）・基準（案）及び発表年月が表示されます。

要領(案)・基準(案)	発表年月
工事完成図書の電子納品等要領	平成28年3月
デジタル写真管理情報基準	平成28年3月
CAD製図基準	平成29年3月
地質・土質調査成果電子納品要領	平成28年10月

図 4-24

4.3 検査済みの成果品データ再表示

検査済みの成果品データを再度読み込み、確認する方法に関して、説明します。

検査済みの成果品データは、チェックシステムを終了しない限り、再度確認や閲覧することができます。

操作手順

1. 電子納品の種類の [▼] をクリックし、リストから電子納品の種類を選択します。

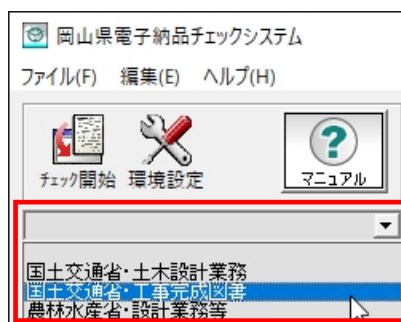


図 4-25

2. 選択された電子納品の種類に成果品のデータがあれば、リスト一覧に表示され、目的の納品物名称を選択すると、成果品データ及び検査結果が表示されます。

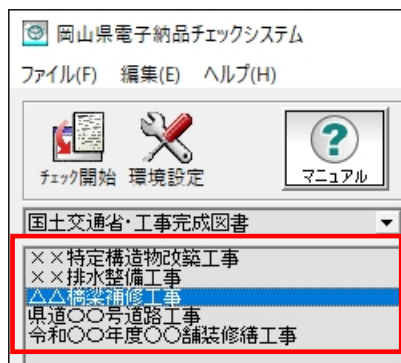


図 4-26



Tips

リストに表示される成果品の名称は、自動でソート（並び替え）されます。

4.4 検査操作ログの表示

チェックシステムの実行結果の記録ファイルであるログファイルについて、説明します。

検査において、全ての操作過程がログファイルに記述されます。

ログファイルは、全体検査ログと成果品毎の検査ログに分けられます。

- 全体検査ログ——同じ日に検査した全ての電子成果品データを記録した物
- 成果品毎検査ログ——最後に検査した電子成果品データを記録したもの

ログファイルを表示するには、メニューの [編集] ⇒ [検査操作ログ] ⇒ [全体検査ログ] あるいは [成果品毎検査ログ] を選択します。

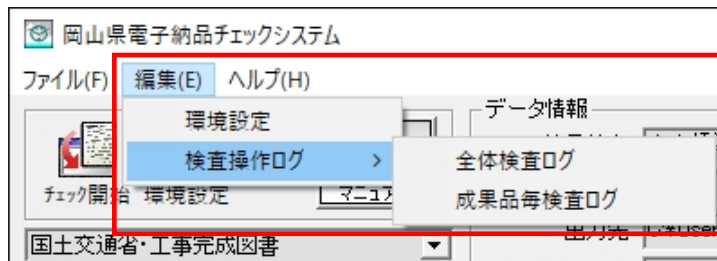


図 4-27

チェックシステムがインストールされたフォルダの配下にある LOG というフォルダの配下へ日付順に出力されます。

例：C:\Program Files\yamaichi\CS_CHECK_OKY\LOG\CSGV_210906.log

同じ日付のログファイルは追加書きで作成されます。

5.環境設定

前章の3. と4. では、一般的な設定に基づいた検査方法を説明しました。チェックシステムの環境設定を行うことによって、より効率的に成果品の検査を行うことができます。環境設定は、電子成果品チェック開始元、出力先の設定、検査を中断するエラー件数、検査オプションなどを行います。

環境設定するには、メイン画面メニューの [編集] ⇒ [環境設定] を選択するか、 [環境設定] のアイコンをクリックすることで、「環境設定」の画面が表示されます。

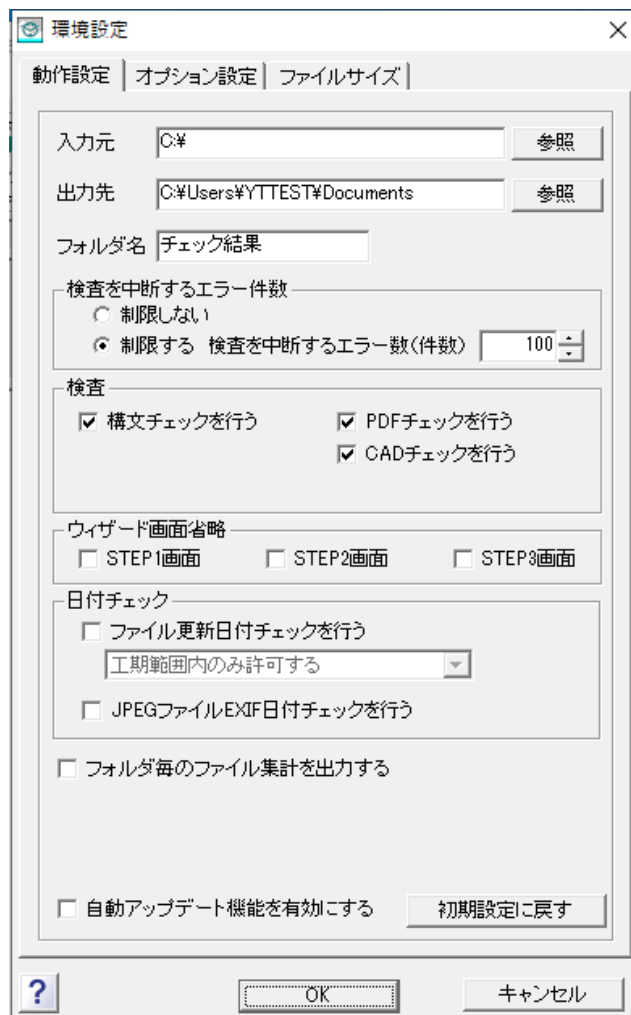


図 5-1



各設定項目にマウスカーソルを置くと、別ウインドウで解説画面が表示されます。
 ※解説画面の表示/非表示は、環境設定画面左下の[?]ボタンで切替可能です。

環境設定

動作設定 | オプション設定 | ファイルサイズ

入力元 C:\# 参照

出力先 C:\Users\YTTTEST\Documents 参照

フォルダ名 チェック結果

検査を中断するエラー件数
 制限しない
 制限する 検査を中断するエラー数(件数) 100

検査
 構文チェックを行う PDFチェックを行う
 CADチェックを行う

ウィザード画面省略
 STEP1画面 STEP2画面 STEP3画面

日付チェック
 ファイル更新日付チェックを行う
 工期範囲内のみ許可する

JPEGファイルEXIF日付チェックを行う

フォルダ毎のファイル集計を出力する

自動

? ボタンで解説画面の表示/非表示の切替が可能

OK キャンセル

ヘルプ

■ 検査

初期設定:

検査
 構文チェックを行う PDFチェックを行う
 CADチェックを行う

解説:

構文チェックを行う	チェックをONにすると、成果品検査を行います。
PDFチェックを行う	チェックをONにすると、設計業務の報告書や営繕成果品のPDFが、規定どおりに作成されているか検査します。
CADチェックを行う	チェックをONにすると、CADファイルが規定どおりに作成されているか検査します。

設定手順:
 ①各項目についてチェックON/OFFを設定します。

設定しておく・・・
 不要な検査・STEPを省略することで、検査時間を短縮できます。
 (下図はSTEP2画面)

検査条件を指定します
 Step#2 検査実行条件を指定します。

検査者ファイルの読みサイズ(MB)

PDFチェック CADチェック

5.1 動作設定タブ

環境設定各項目について、説明します。

(1) 入力元

検査を行う電子納品ファイルが存在するドライブ・フォルダを指定します。

☞デフォルト チェックシステムがインストールされているドライブが指定されます。

設定方法：

直接入力元のパスを入力するか、[参照] をクリックすると、「入力元指定」の画面が表示されますので、電子成果品データが格納されているドライブ（例：CD ドライブ）やフォルダを指定し、[OK] をクリックすると、ドライブあるいはフォルダのパスが設定されます。

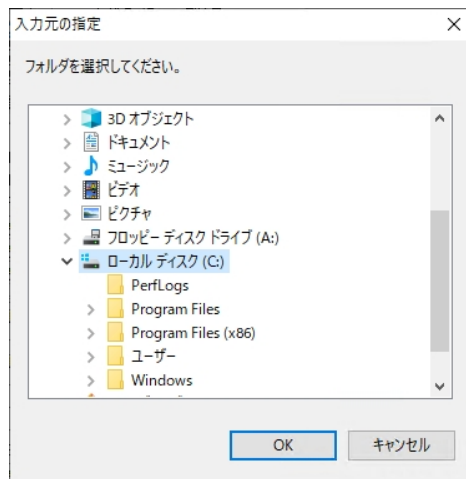


図 5-2

(2) 出力先

検査時に必要なファイルの出力先のドライブ・フォルダを指定します。

☞デフォルト “Documents” が指定されます。

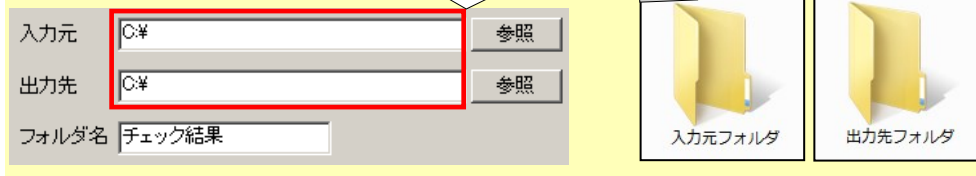
設定方法：

[参照] をクリックすると、「出力先の指定」の画面が表示されますので、電子成果品データを一時的にコピーするドライブやフォルダを指定し、[OK] をクリックすることでパスが設定されます。直接パスを入力することもできます。



Tips

「入力元」(もしくは「出力先」)のボックス部分に、入力元(出力先)とするフォルダをドラッグ
&ドロップすることでも指定できます。



(3) フォルダ名

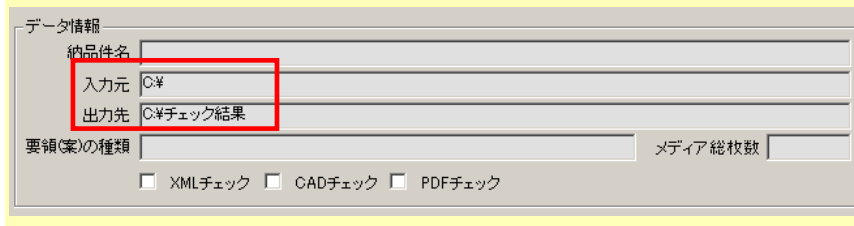
「出力先」に指定されたパス配下に、作成するフォルダの名前を入力します。入力されたフォルダ名でフォルダが作成され、このフォルダの配下に検査時に必要なファイルが格納されます。

☞ デフォルト 「チェック結果」フォルダが作成されます。



Tips

環境設定完了後、設定された入力元、出力先がメイン画面に反映されます。



(4) 検査を中断するエラー件数

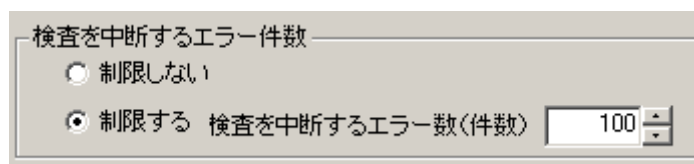


図 5-3

エラーの件数が多い場合、検査を中断することができます。

「制限しない」あるいは「制限する」を選択でき、「制限する」を選択した場合、エラーの件数を 20000 件まで設定することができます。

☞ デフォルト 「制限する」で、エラー件数は 100 と設定されます。

(5) 検査

検査に関する設定を行います。

検査	
<input checked="" type="checkbox"/> 構文チェックを行う	<input checked="" type="checkbox"/> PDFチェックを行う
	<input checked="" type="checkbox"/> CADチェックを行う

図 5-4

● 構文チェックを行う：

電子成果品を検査するかを設定します。チェックを外した場合、電子成果品をチェックせずに、閲覧画面作成のみを行います。

☞ デフォルト ON

● PDF チェックを行う：

設計業務の報告書 (REPORT) フォルダに含まれる報告書 PDF が電子納品要領 (案) の規定とおりに作成されているかどうかをチェックします。

☞ デフォルト ON

● CAD チェックを行う：

図面フォルダ (DRAWING、DRAWINGS、DRAWINGF) に格納される CAD ファイル (P21、SFC) が要領 (案) の規定通りに作成されているかどうかをチェックします。

☞ デフォルト ON

協議によって決められたレイヤなど含む CAD ファイルのチェックはできません。

(6) ウィザード画面省略

検査時の STEP1～3 画面の表示に関する設定を行います。



図 5-5

■ STEP1 画面：

チェックを入れると、検査時に、STEP1 画面を省略できます。

STEP1 画面を省略する場合、あわせて動作設定タブの入力元設定で、常に参照する入力元を指定して下さい。（例：DVD ドライブ）

☞初期設定 OFF

■ STEP2 画面：

チェックを入れると、検査時に、STEP2 画面を省略できます。

☞初期設定 OFF

■ STEP3 画面：

チェックを入れると、検査時に、STEP3 画面を省略できます。

☞初期設定 OFF

💡 Tips

STEP1～3 画面省略の活用例：

あらかじめ DVD ドライブ（D ドライブ等）を入力元に設定し、STEP1～STEP3 画面を省略する設定にしておくと、DVD ドライブに成果品媒体をセットし、〔チェック開始〕ボタンを押すだけで、途中のボタン操作無しに検査・閲覧画面作成までの処理を実行できます。

⚠ 注意

- ・「入力元に成果品が存在しなかった」「検査要領を自動判別できなかった」等の場合、STEP1～STEP3 画面が表示されますので、手動で設定を行って下さい。

(7) 日付チェック

図 5-6

● ファイル更新日付チェックを行う：

実ファイルの更新日時が INDEX ファイルの工期範囲内かどうかをチェックします。

☞デフォルト OFF

(例：INDEX_C.XML に記載された工期開始日・終了日が「2015-05-01」～

「2015-07-29」の場合、ファイル更新日時が 2015 年 10 月 20 日だと、工期範囲外のためエラーとなります。)

💡 Tips

許可する更新日付の範囲は、3 種類から選択できます。

※カッコ内は、上記例の場合、許可する日付範囲です。

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| ① 「工期範囲内のみ許可する」 | (2015-05-01～2015-07-29 を許可) |
| ② 「工期範囲内と工期後を許可する」 | (2015-05-01 以降も許可) |
| ③ 「工期範囲内と工期前を許可する」 | (2015-07-29 以前も許可) |

● JPEG ファイル EXIF 日付チェックを行う：

成果品内の JPG ファイルについて、ファイル更新日時と、Exif 情報 (JPG ファイル内部で持つ撮影年月日情報) が一致するかをチェックします。一致しない場合、Exif 情報が存在しない場合にエラーを出します。

☞デフォルト OFF

(8) 「フォルダ毎のファイル集計を出力する」

 フォルダ毎のファイル集計を出力する

図 5-7

検査結果の最下部に該当要領（案）で規定されたフォルダ毎に格納されているファイル数が集計されたリストを表示します。

☞ デフォルト OFF

(9) 「自動アップデート機能を有効にする」

 自動アップデート機能を有効にする

図 5-8

チェックシステムを起動する際に、自動アップデートを行うか否かを設定します。

☞ デフォルト OFF

(10) 初期設定に戻す

図 5-9

[初期設定に戻す] をクリックすることによって、各設定は初期状態の設定に戻ります。

5.2 オプション設定タブ

PDF チェック、CAD チェックの環境設定を行います。

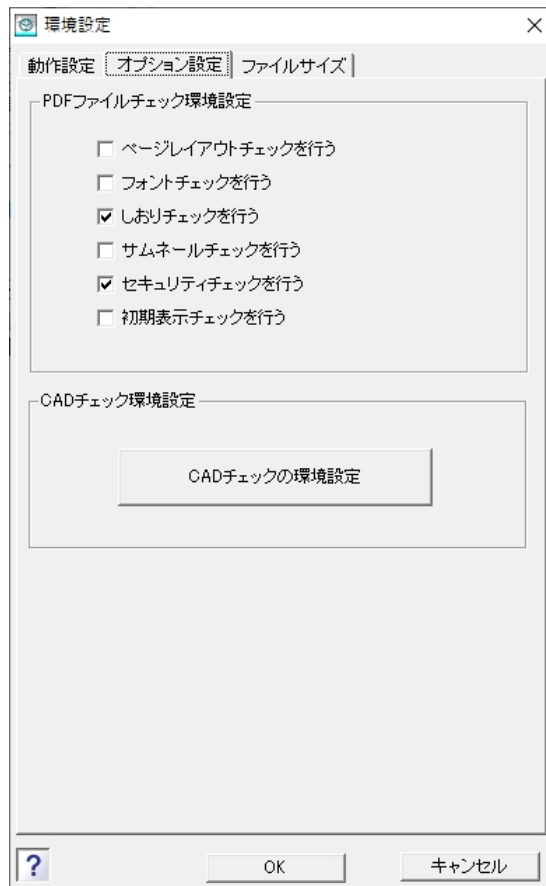


図 5-10

Notes

表記の説明：

「」はインストール時の初期設定される項目

以降の説明には、「初期設定 ON」と表記します。

「」はインストール時に設定されない項目

[初期設定に戻す] あるいは CAD チェック環境設定画面の [初期化] ボタンをクリックすることで、インストールした直後の状態に戻すことができます。

5.2.1 PDF チェックの設定

以下各項目を検査するかどうかを選択します。

■ ページレイアウトチェックを行う

ページサイズ A4 縦であるかを検査します。

☞初期設定 OFF

■ フォントチェックを行う

フォントが埋め込まれているかを検査します。

☞初期設定 OFF

■ しおりチェックを行う

しおりが作成されているかを検査します。

☞初期設定 ON

■ サムネイルチェックを行う

サムネイルが作成されているかを検査します。

☞初期設定 OFF

■ セキュリティチェックを行う

セキュリティされているかを検査します。

☞初期設定 ON

■ 初期表示チェックを行う

1 ページ目、100%で表示されているかを検査します。

☞初期設定 OFF

5.2.2 CAD チェックの設定

CAD チェックの環境設定を行う際、[CAD チェックの環境設定] ボタンをクリックすると、「環境設定」画面が表示されます。

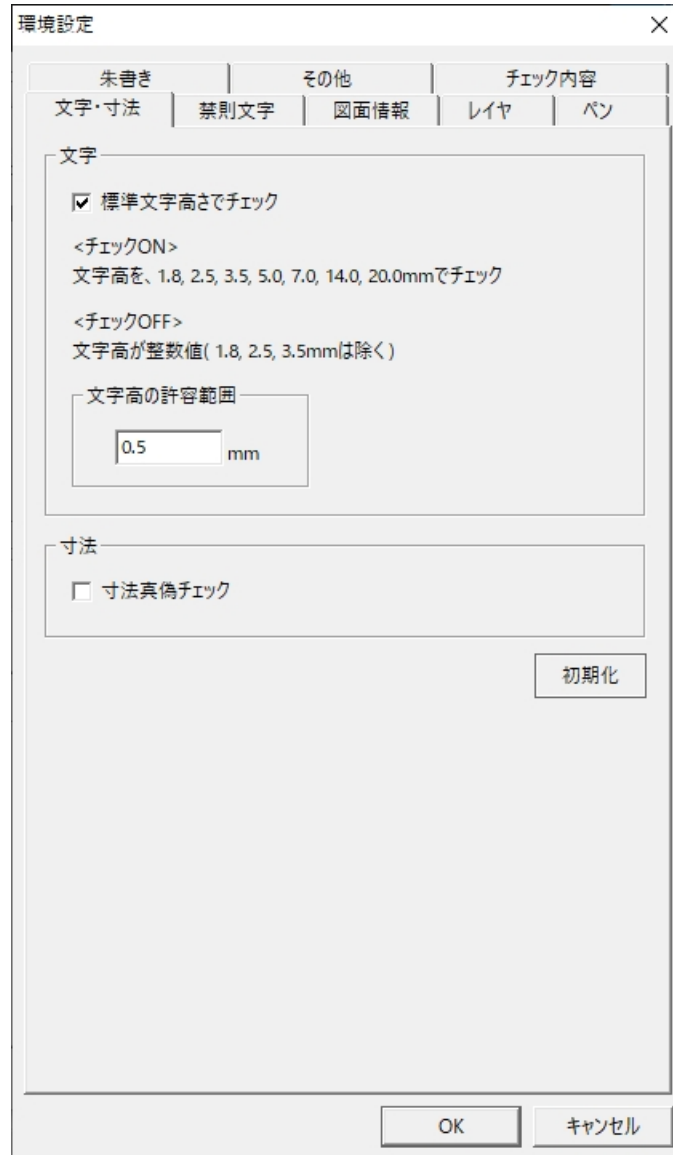


図 5-11

(1) 「文字・寸法」タブ

■ 文字：

文字

標準文字高さでチェック

<チェックON>
文字高を、1.8、2.5、3.5、5.0、7.0、14.0、20.0mmでチェック

<チェックOFF>
文字高が整数値(1.8、2.5、3.5mmは除く)

文字高の許容範囲

0.5 mm

標準文字高さでチェック：

要領（案）・基準（案）に規定された文字高さで検査します。

<チェック ON> 文字高を 1.8、2.5、3.5、5.0、7.0、14.0、20.0mm を基準にチェックを行います。

<チェック OFF> 文字高を整数値で検査します。1.8、2.5、3.5mm を除きます。

☞初期設定 ON

通常は、この設定を変更しないで下さい。

文字高の許容範囲：

文字の高さは、縮尺や SXF 変換などによって、誤差が生じることがあります。

数値入力欄に許容範囲を入力します。文字高さの許容範囲制限は 0.00～1.00mm とします。

☞初期設定 0.5mm

通常は、この設定で問題がありませんが、必要に応じて変更できます。

■ 寸法：

寸法

寸法真偽チェック

寸法の値と実際の寸法と相違があるかの検査を行います。

寸法真偽チェック：

<チェック ON> 直線寸法の真偽検査を行います。

<チェック OFF> 真偽検査を行いません。

☞初期設定 OFF

通常は、チェック OFF で問題ありません。

(3) 「図面情報」タブ

■ 図面情報出力設定

不適合内容のみ出力：

<チェック ON> 不適合のファイルに関する検査結果のみ出力されます。

<チェック OFF> 適合のファイルの検査結果も出力されます。

☞初期設定 ON

図面情報出力：

<チェック ON> 以下の図面情報出力項目が出力されます。

<チェック OFF> 以下の図面情報出力項目が出力されません。

・ファイル名

使用できません。ファイル名の検査は、ファイル構成チェックやXML構成チェックで行います。

・図面余白

余白が規定より不足しているのか、外枠のレイヤ(TTL)があるのかの検査を行います。

A1の場合、余白20mm、許容範囲を±0.7mmとします。

☞初期設定 ON 許容範囲を±0.7mm

通常は、この設定で問題ありませんが、必要に応じて許容範囲を変更できます。

・縮尺

全ての部分図の縮尺が1/1に設定されている、部分図に縦横異縮尺が使用されている、あるいは1/1よりも大きい縮尺が使用されている場合に、検査結果にこれらエラーが表示されます。

☞初期設定 OFF

・用紙サイズ

用紙サイズに A 列以外の用紙が使用されている場合、検査結果に用紙サイズのエラー結果が表示されます。

☞初期設定 ON

・SXF 要素

寸法線関連の要素が使用されていない、あるいはラスターが複数使用されている場合に、エラー結果が表示されます。

※寸法線関連は、対象図面のレイヤ名に"DIM"がある場合のみ検査を行います。

☞初期設定 OFF

・線幅

4種類以上の線幅が使用されている場合、線の太さが1：2：4の比率になっていないというエラー結果が表示されます。

☞初期設定 OFF

チェック設定項目を出力：

<チェック ON> 検査結果に、環境設定で設定された検査に関する全ての設定内容が出力されます。

<チェック OFF> 検査基準の設定内容を出力しません。

☞初期設定 OFF

■ チェック制限

「制限あり」、または「制限なし」のいずれかをクリックして選択します。

「制限あり」を選択した場合は、入力欄内に件数を入力します。1 ファイルに 1000 件のエラーがあれば、検査を中止します。

☞初期設定 制限あり、1000 件

(4) 「レイヤ」タブ

■ レイヤ名の区切り



「レイヤ名の区切り記号」または「レイヤの区切り記号を設定」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

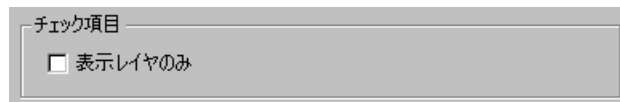
「レイヤの区切り記号を設定」を選択した場合は、入力欄内に区切り記号を入力します。

☞初期設定 - (ハイフン)

要領（案）・基準（案）では、-（ハイフン）と規定されております。

通常は、この設定を変更しないで下さい。

■ チェック項目



表示レイヤのみ：

<チェック ON> 表示レイヤのみを検査し、非表示レイヤのチェックは行いません。

<チェック OFF> 全レイヤを検査します。

☞初期設定 OFF

(5) 「ペン」 タブ

■ 線色

該当工種定義の指定線色でチェック

<チェック ON> 要領（案）・基準（案）以外の基準で線色を検査します。

<チェック OFF> 要領（案）・基準（案）に従って検査を行います。

この場合、色は RGB 値で検査します。※RGB 値が 128 の場合は 127、192 の場合は 191 も許可します。

☞初期設定 OFF

通常は、該当工種定義の指定線色でチェックを使用しません。この設定を変更しないで下さい。

1 レイヤに 1 線色

<チェック ON> 1 レイヤに 1 線色しかない場合を想定して検査を行います。

<チェック OFF> 1 レイヤに複数線色があると想定して検査を行います。

但し、現時点の要領（案）・基準（案）では、1 レイヤに複数線色を使用するという規定がありませんので、この設定は、変更する必要がなく、チェックボックスを“ON/OFF”に設定しても同じ検査結果が得られます。

☞初期設定 OFF

通常は、この設定を変更する必要はありません。

■ 線種

該当工種定義の指定線種でチェック

<チェック ON> 要領（案）・基準（案）以外の基準で線種を検査します。

<チェック OFF> 要領（案）・基準（案）に従って検査を行います。

☞初期設定 OFF

通常は、該当工種定義の指定線種でチェックを使用しません。この設定を変更しないで下さい。

レイヤに 1 線種

<チェック ON> 1 レイヤに 1 線種しかない場合を想定して検査を行います。

<チェック OFF> 1 レイヤに複数線種があると想定して検査を行います。

一部の要領（案）のレイヤには、1 レイヤに複数線種の使用が許可されている場合があります。1 レイヤ複数線種で検査する際は、必ずこの設定を OFF にして下さい。但し、複数線種の使用が許すため、検査自体は緩くなります。

また、要領（案）・基準（案）で、1 レイヤ 1 線種と規定されている殆どの工種については、このチェックボックスを OFF にしても、1 レイヤ 1 線種で検査されます。

逆に、意図的に 1 レイヤ複数線種で規定されているレイヤも、「1 レイヤ 1 線種」で検査する場合は、このチェックボックスを ON にして下さい。

※線種ピッチの比較では、ピッチ誤差を 0.01mm として比較します。

☞初期設定 OFF

通常は、この設定を変更する必要がありません。

破線を区別する、一点鎖線を区別する、二点鎖線を区別する、三点鎖線を区別する

<チェック ON> 類似した線種（破線の場合、跳び破線）をエラーとします。

<チェック OFF> 要領（案）・基準（案）に従い、類似した線種をエラーとしません。

☞初期設定 OFF

■ 線幅：

線幅

該当工種定義の指定線幅でチェック

図面枠(-TTL)

図面枠(TTL)の線幅をチェックする

該当工種定義の指定線幅
 既定義線幅

該当工種定義の指定線幅でチェック

<チェック ON> 要領（案）・基準（案）以外の基準で線種を検査します。

<チェック OFF> 要領（案）・基準（案）に規定された線幅の比率で検査します。

☞初期設定 OFF

通常は、該当工種定義の指定線幅でチェックを使用しません。この設定を変更しないで下さい。

図面枠(TTL)の線幅をチェック

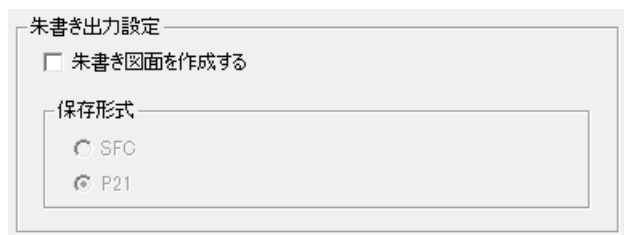
<チェック ON> 図面枠 (TTL レイヤ) を含み、使用されている全ての線幅を検査する。

<チェック OFF> 図面枠(TTL レイヤ)の線幅は検査対象外とする。

☞初期設定 ON、該当工種定義の指定線幅：ON

「該当工種定義の指定線幅」での検査は、1.4mmのみとなり、1.4mm以外の線幅が使用されている場合は、エラーとして検知されます。

「既定義線幅」が ON の場合は、要領 (案) で規定されている線幅 (0.13、0.18、0.25、0.35、0.5、0.7、1.0、1.4、2) で検査を行います。そのため、図面枠線が 1.4mm 以外の要領 (案) で規定されている線幅で作成されていても、エラーとして検知されません。

(6) 「朱書き」タブ**■ 朱書き図面を作成する**

<チェック ON> 検査後、エラーのある図面に朱書きを行った図面を出力します。

<チェック OFF> 朱書き図面の出力を行いません。

☞初期設定 OFF

■ 保存形式

朱書き図面の形式を P21、SFC で保存するかを選択できます。

☞初期設定 P21 (但し、「朱書き図面を作成する」：OFF)

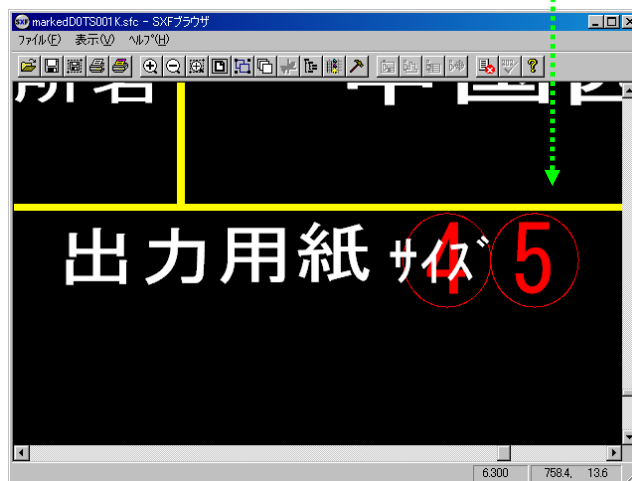
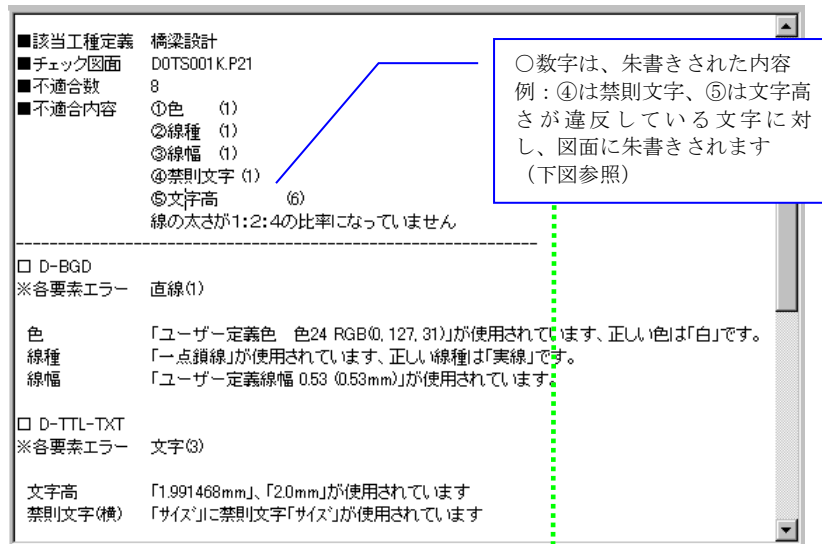
朱書きファイルは成果品の出力先フォルダと同じ階層に「○○○※朱書き CADfile」フォルダを作成し、「marked 対象図面ファイル名.sfc」の名称で作成されます。

(※○○○は工事番号もしくは、設計書コード)

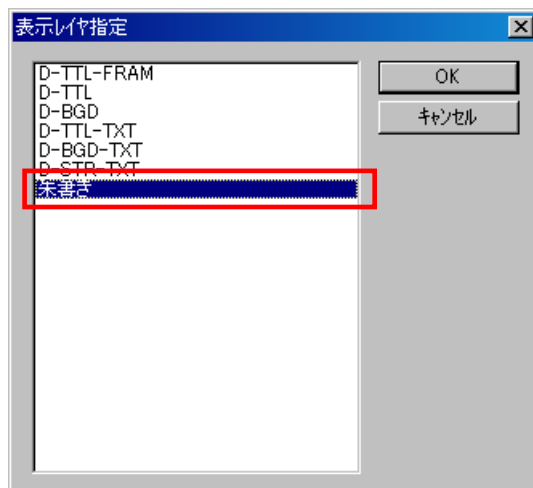
検査結果表示の最下部に、以下のように、出力先が記載されます。

CAD 朱書きファイルは
 C:\Documents and Settings\admin\My Documents\成果品\935070059 朱書き
 CADfile\
 に出力されました。

検査結果に朱書きの内容が表示されます。



朱書きの内容は、「朱書きレイヤ」に記載されます。



朱書き番号とエラー内容の凡例：

朱書きは以下の 5 種類のエラーが検出された際に、自動的に行います。

朱書き番号	エラー内容	説明
①	色	各レイヤに規定されている色と違う場合
②	線種	各レイヤに規定されている線種と違う場合
③	線幅	要領（案）に規定されている線幅と違う場合
④	禁則文字	禁則文字が使用されている場合
⑤	文字高	要領（案）に規定されている文字高さとは違う場合
⑥	寸法真偽	寸法値が実際の長さとは異なる場合

！ 注意

- ・初期設定では、「寸法真偽」は朱書きされません。寸法真偽チェックを ON に設定すると朱書きされます。

(7) 「その他」タブ

<input type="checkbox"/> 詳細チェック	
図面情報出力	
<input type="checkbox"/>	位置図・平面図(LC, PL, IP)で測量座標系が使用されていない場合
<input type="checkbox"/>	作図要素TXTに文字列が使用されていない場合
<input type="checkbox"/>	作図要素HTXTに文字列または引出線が使用されていない場合
<input type="checkbox"/>	作図要素FRAM, LINE, STR, 図面オブジェクトBMK, BGD, STRに文字列が使用されている場合
<input type="checkbox"/>	作図要素HCHにハッチングが使用されていない場合
<input type="checkbox"/>	作図要素RSTRにラスター以外の要素がある場合
<input type="checkbox"/>	図面に寸法線関連の要素が使用されていない場合
国H20.05/農水省H23.03のみの設定	
<input type="checkbox"/>	-DIM,-HTXTレイヤの線分が、実線の0.13mmではない場合
<input type="checkbox"/>	-DIM,-HTXTレイヤの線幅は、線幅比率のチェックから除外
<input checked="" type="checkbox"/> SUV,SUV-***レイヤは色、線種、線幅、文字サイズのチェックしない	

■ 詳細チェック

<チェック ON> 図面情報出力について詳細検査を行います。

<チェック OFF> 図面情報出力について詳細検査を行いません。

☞ 初期設定 OFF

通常は、図面情報出力にある詳細な検査は行いません。

■ 図面情報出力

位置図・平面図(LC, PL, IP)で測量座標系が使用されていない場合

用紙(0 シート)を除いた全シート中の座標系に測量座標系(X↑→Y)が使用されているか検査します。測量座標系が使用されていない場合、『部分図に測量座標系が使用されていません』を出力します。

作図要素 TXT に文字列が使用されていない場合

レイヤ名の作図要素が”TXT”の場合(*-***-TXT)、文字要素が使用されているか検査します。文字要素が使用されていない場合、『文字要素がありません』を出力します。

作図要素 HTXT に文字列または引出線が使用されていない場合

レイヤ名の作図要素が”HTXT”の場合(*-***-HTXT)、文字要素かバルーン要素が使用されているか検査します。文字・バルーンが使用されていない場合、『文字要素がありません』を出力します。

作図要素 FRAM, LINE, STR, 図面オブジェクト BMK, BGD, STR に文字列が使用されている場合

レイヤ名の図面オブジェクトが”BMK, BGD, STR”、または作図要素が”FRAM, LINE, STR”の場合

(*-BMK, *-BGD, *-STR, *-***-FRAM, *-***-LINE, *-***-STR)

文字要素が使用されているか検査します。

文字要素が使用されていた場合、『文字要素があります』を出力します。

作図要素 HCH にハッチングが使用されていない場合

レイヤ名の図面オブジェクトが"DCR"、かつ作図要素が"HCH"の場合(*-DCR-HCH)ハッチング要素が使用されているか検査します。ハッチング要素が使用されていない場合、『ハッチング要素がありません』を出力します。

作図要素 RSTR にラスター以外の要素がある場合

レイヤ名の作図要素が"RSTR"の場合(*-***-RSTR)、ラスター以外の要素が使用されているか検査します。ラスター以外の要素があった場合、『ラスター以外の要素があります』を出力します。

図面に寸法線関連の要素が使用されていない場合

図面に寸法線関連の要素が使用されているか検査します。

※寸法線要素関連 = 直線・角度・周長・半径・直径・面取寸法

寸法要素関連が使用されていない場合、『寸法線関連の要素が使用されていません』を出力します。

☞初期設定 すべて OFF

-DIM,-HTXT レイヤの線分が、実線の 0.13mm ではない場合

-DIM,-HTXT レイヤの線分が、実線の 0.13mm ではない場合、『不適合内容 ③線幅』を出力します。

☞初期設定 OFF

-DIM,-HTXT レイヤの線幅は、線幅比率のチェックから除外

-DIM,-HTXT レイヤの線幅が、線幅比率に含まれていなくても、エラーとしません。

☞初期設定 OFF

SUV,SUV-***レイヤは色、線種、線幅、文字サイズのチェックしない

SUV,SUV-***レイヤについて色、線種、線幅、文字サイズのチェックを行いません。

☞初期設定 ON

(8) 「チェック内容」タブ

チェック項目
<input checked="" type="checkbox"/> レイヤ名
<input type="checkbox"/> 線種
<input type="checkbox"/> 線色
<input type="checkbox"/> 線幅
<input checked="" type="checkbox"/> 図面サイズ
<input checked="" type="checkbox"/> 余白サイズ
<input checked="" type="checkbox"/> 文字サイズ
<input type="checkbox"/> 禁則文字チェック
<input type="checkbox"/> 重複図形
<input type="checkbox"/> ショートベクトル
<input type="checkbox"/> 背景同色
<input type="checkbox"/> 文字配置

■ チェック項目

レイヤ名

レイヤ名が基準（案）、要領（案）に沿っているか検査します。

☞初期設定 ON

線種

レイヤ毎に使用している線種が基準（案）、要領（案）に沿っているか検査します。

☞初期設定 OFF

線色

レイヤ名毎に使用している線色が基準（案）、要領（案）に沿っているか検査します。

☞初期設定 OFF

線幅

図面内で使用している線幅が基準（案）、要領（案）に沿っているか検査します。

☞初期設定 OFF

図面サイズ

図面サイズが A1 横となっているか検査します。

☞初期設定 ON

余白サイズ

図面枠の余白が正常に取れているか検査します。

☞初期設定 ON

文字サイズ

図面内で使用中の文字のサイズが基準(案)、要領(案)に沿っているか検査します。

☞初期設定 ON

禁則文字チェック

図面内で使用中の文字に使用禁止の文字が使用されていないか検査します。

☞初期設定 OFF

重複図形

図面内で同じフィーチャが重複していないか検査します。

☞初期設定 OFF

ショートベクトル

図面内で、短い線分の連続が作成されていないか検査します。

☞初期設定 OFF

背景同色

図面内で背景色と同じ色のフィーチャを作画していないか検査します。

☞初期設定 OFF

文字配置

図面内で縦書きフォントを横書きに配置していないか検査します。

☞初期設定 OFF

6.自動アップデート機能

チェックシステムは、常に最新バージョンが使用できるように、ソフト起動時に、インターネットを通じてサーバーへアクセスし、最新バージョンでない場合、アップデートを行います。

本機能を使用するには、常時インターネットを接続している環境が必要です。



初期状態では自動アップデート機能は **OFF** になっています。

利用する場合は、環境設定画面から [自動アップデート機能を有効にする] にチェックを入れてください。

再度ソフトウェアを起動する際に機能が動作します。

6.1 自動アップデート

(1) 最新バージョンを使用している場合

チェックシステムを起動すると、更新中ダイアログが表示され、バージョンが最新の場合、直ちにチェックシステムのメイン画面が表示されます。

(2) 古いバージョンを使用している場合：

チェックシステムを起動すると、更新中ダイアログが表示され、バージョンが古い場合、下図のようなファイルダウンロード画面が表示され、アップデートが開始されます。アップデートが完了すると、チェックシステムのメイン画面が表示されます。

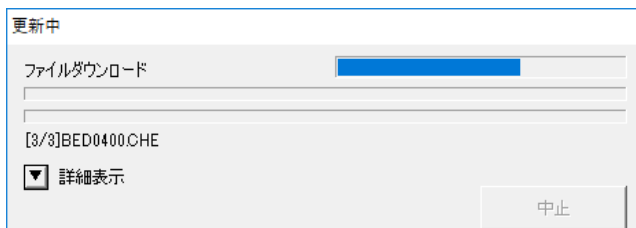


図 6-1



Tips

ソフトウェア内容が大きく変更される場合は、新しいチェックシステムが公開されたことをアナウンスする画面が起動します。

6.2 インターネットに接続していない環境での起動

インターネットに接続していない環境では、チェックシステムを起動すると、下図が表示されます。[OK] をクリックすると、チェックシステムが起動します。

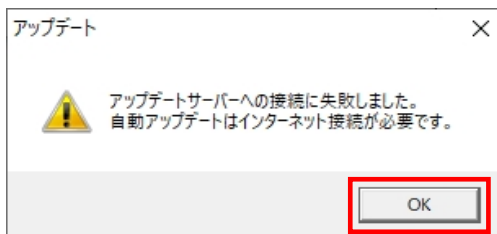


図 6-2

7.エラー・注意メッセージ集

検査結果に表示されるエラー・注意メッセージについてご紹介します。

エラー・注意メッセージは、以下の 5 種類に分類されます。

- 「情報・ファイル構成チェック」

検査に関する情報、及びファイル構成チェックでのエラー・注意です。

- 「XML 構成チェック」

XML 構成チェックでのエラー・注意です。

- 「PDF チェック」

PDF ファイルの内容を検査した結果のエラー・注意です。

- 「CAD チェック」

CAD ファイルの内容を検査した結果のエラー・注意です。

- 「日付チェック」

ファイルの更新日付情報を検査した結果のエラー・注意です。

※環境設定画面で、日付チェックを行う設定にした場合のみチェックされます。

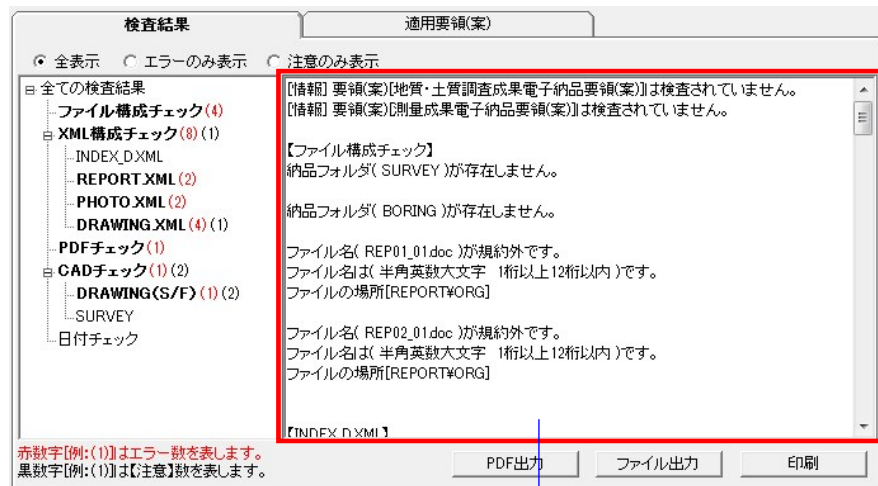


図 7-1

エラー・注意メッセージ

次頁より、エラー・注意メッセージの一覧をご紹介します。

7.1 情報・ファイル構成チェック

No	エラーメッセージ	原因と対処
1	[情報] 要領(案) [◎◎] は検査されていません。	成果品に納品フォルダ（管理ファイル）がない場合に表示されます。 この場合、要領（案）の自動判別では、「XML が存在しません」と表示されます。 納品ファイル自体が存在しない成果品ではエラーではありません。その場合、修正の必要はありません。
2	[情報] フォルダ [◎◎] は検査されていません。	検査時のオプション（STEP-3）で、フォルダに対する検査を外した場合に表示されます。
3	ルート直下に成果品がありません。	CD のルートに、何らかのフォルダが作成されていて、その中に INDEX_C.XML 及び納品フォルダが格納されています。 CD ルート直下に成果品を格納して下さい。
4	DTD ファイル(◎◎)が存在しません。	成果品に指定の DTD ファイルが格納されていません。 該当の DTD ファイルを格納して下さい。
5	納品フォルダ(◎◎)が存在しません。	INDEX_C.XML (INDEX_D.XML) にフォルダ名が記述されているが、成果品に納品フォルダが存在しません。 フォルダの有無、XML の記述を確認して下さい。 フォルダが必要ない場合は、XML 中から該当フォルダの記述を削除して下さい。
6	◎◎.XML が存在しません。	インデックスファイルにフォルダの記述があり、実際にフォルダも存在しているが、フォルダ内に管理 XML ファイルが存在しないときに表示されます。 必要がない場合は、インデックスファイルから情報を削除し、実際のフォルダも削除して下さい。
7	ファイル名(◎◎) が存在しません。	必須ファイルが存在しないときに表示されます。 問題ないか確認して下さい。
8	ファイル名(◎◎)が規約外です。ファイル名は(◎◎)です。	成果品内に、要領（案）に準拠していない（文字数オーバー、使用文字違反）ファイルが格納されています。 要領（案）のファイル名命名規則に従い、ファイル名を修正して下さい。特に英字は小文字の使用はできませんので注意が必要です。
9	フォルダ名(◎◎)が規約(◎◎)外です。	成果品内に、要領（案）に準拠していないフォルダ（文字数オーバー、使用文字）が格納されています。 要領（案）のフォルダ名命名規則に従い、フォルダ名を修正して下さい。
10	【注意】XML に記載のないフォルダ(◎◎)が存在します。	各種管理 XML ファイルに納品フォルダの記述はないが、実際にフォルダが格納されている場合に表示されます。 フォルダは必要かどうか、または XML ファイルに記述漏れがないか確認して下さい。 基本的に要領案で指定されているフォルダ以外が存在する場合に表示されます。既定以外のフォルダは作成しないで下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
11	○枚目のメディアの△△の内容が、○枚目のメディアの△△と一致していません。	複数枚の成果品 CD で、納品データが複数の CD に跨る場合、同じ XML を格納する必要がありますが、異なった CD に格納された XML の内容が違う場合に表示されます。複数の CD に同じ内容の XML を格納して下さい。
12	エラー件数が指定制限値（○○件）を超えたため、チェック処理を中断しました。検査を中断するエラー件数は、環境設定にて変更できます。	総エラー数が環境設定で指定されている制限数に達した時に表示されます。環境設定にて「制限しない」を選択している場合でも、エラー件数が 20000 件に達した時点で本メッセージが表示され、チェックは停止します。
13	【注意】XML ファイル（○○）が存在しませんが、納品フォルダ配下にフォルダが存在します。	注意メッセージです。納品フォルダに XML がありませんが、納品フォルダ配下にフォルダが格納されています。本来、対象のフォルダに何らかのフォルダが存在する場合、管理ファイルである XML の存在が必須となります。管理ファイルを作成し、納品フォルダの情報を記述するか、納品フォルダに格納するフォルダを見直して下さい。
14	【注意】XML ファイル（○○）が存在しませんが、納品フォルダ配下にファイルが存在します。	注意メッセージです。納品フォルダに XML がありませんが、納品フォルダ配下にファイルが格納されています。本来、対象のフォルダに何らかのファイルが存在する場合、管理ファイルである XML の存在が必須となります。管理ファイルを作成し、納品ファイルの内容を記述するか、納品ファイルの格納フォルダを見直して下さい。

7.2 XML 構成チェック

No	エラーメッセージ	原因と対処
■ 共通メッセージ		
1	値が指定されていません。 △△ は必須入力です。	必須入力項目に、内容が記述されていません。 必須項目に、必ず要領（案）の規定に従い内容を記述して下さい。
2	使用文字に誤りがあります。赤字の文字は使用できません。 使用できる文字は ◎◎ です。	文字桁数に問題がある、または禁則文字等が使用されています。禁則文字は、赤字で表示されます。 要領（案）の規定に従い、使用できる文字で記述して下さい。
3	データ表記形式に誤りがあります。 表記形式は ◎◎ です。	XML ファイルに記載されているファイル名、形式が要領（案）の規定形式と一致しません。 要領（案）の規定に従い、表記形式で記述して下さい。
4	値に誤りがあります。 指定できる値は ◎◎ です。	XML ファイルに記載されている値が要領（案）の規定と一致しません。 要領（案）の規定に従い、値を記述して下さい。
5	日付形式に誤りがあります。日付形式は ◎◎ です。	日付の記述が「YYYY-MM-DD」の形式になっていません。 要領（案）の規定に従い、日付形式を記入して下さい。
6	△△(◇◇)より前の日付です。	後の日付が前の日付よりも若い内容が記述されています。 日付の前後を確認し、記述を修正して下さい。
7	インデックスファイルに記述されている期間外の日付が記入されています。	INDEX*.XML に記載されている日付期間外の日付が記入されています。 (例：INDEX_C.XML の工期開始日・終了日が「2009-05-01」～「2009-7-31」の場合、PHOTO.XML の撮影年月日が「2009-08-10」だと、工期範囲外のためエラーとなります。) 日付を確認し、記述を修正して下さい。
8	同じ値 ◎◎ が記述されています。	シリアル番号など、「重複しない番号を記述する」と要領（案）で規定されている項目に、重複した値が入力されています。 要領（案）の規定に従い、重複しない値を記述して下さい。
9	値に誤りがあります。指定できる値は ◎◎ ～ △△ の範囲です。	入力された値の範囲に誤りがあります。 要領（案）の規定に従い、正しい範囲を記述して下さい。
10	文字数に誤りがあります。文字数は ◎◎ 桁固定です。	記述した値の文字数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しい文字数で記述して下さい。
11	文字数に誤りがあります。文字数は ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内です。	記述した値の文字数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しい文字数で記述して下さい。
12	文字数に誤りがあります。バイト数は ◎◎ 桁固定です。	記述した値のバイト数（半角文字数）が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいバイト数（半角文字数）で記述して下さい。
13	文字数に誤りがあります。バイト数は ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内です。	記述した値のバイト数（半角文字数）が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいバイト数（半角文字数）で記述して下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
14	文字数に誤りがあります。文字数は整数部 ◎◎ 桁固定、小数部 △△ 桁固定です。	記述した値の桁数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しい文字桁数で記述して下さい。
15	文字数に誤りがあります。文字数は整数部 ◎◎ 桁固定、小数部 △△ 桁以上 ◇◇ 桁以内です。	記述した値の桁数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しい文字桁数で記述して下さい。
16	文字数に誤りがあります。文字数は整数部 ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内、小数部 ◇◇ 桁固定です。	記述した値の桁数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しい文字桁数で記述して下さい。
17	文字数に誤りがあります。文字数は整数部 ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内、小数部 ◇◇ 桁以上 ○○ 桁以内です。	記述した値の桁数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しい文字桁数で記述して下さい。
18	文字数に誤りがあります。バイト数は整数部 ◎◎ 桁固定、小数部 △△ 桁固定です。	記述した値の桁数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいバイト桁数（半角数値桁数）で記述して下さい。
19	文字数に誤りがあります。バイト数は整数部 ◎◎ 桁固定、小数部 △△ 桁固定です。	記述した値の桁数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいバイト桁数（半角数値桁数）で記述して下さい。
20	文字数に誤りがあります。バイト数は整数部 ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内、小数部 ◇◇ 桁固定です。	記述した値の桁数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいバイト桁数（半角数値桁数）で記述して下さい。
21	文字数に誤りがあります。バイト数は整数部 ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内、小数部 ◇◇ 桁以上 ○○ 桁以内です。	記述した値の桁数が規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいバイト桁数（半角数値桁数）で記述して下さい。
22	ファイル名に誤りがあります。文字数はベース名 ◎◎ 桁固定、拡張子 △△ 桁固定です。	記述したファイル名の桁数が左記の規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいファイル名を記述して下さい。
23	ファイル名に誤りがあります。文字数はベース名 ◎◎ 桁固定、拡張子 △△ 桁以上 ◇◇ 桁以内です。	記述したファイル名の桁数が左記の規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいファイル名を記述して下さい。
24	ファイル名に誤りがあります。文字数はベース名 ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内、拡張子 ◇◇ 桁固定です。	記述したファイル名の桁数が左記の規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいファイル名を記述して下さい。
25	ファイル名に誤りがあります。文字数はベース名 ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内、拡張子 ◇◇ 桁以上 ○○ 桁以内です。	記述したファイル名の桁数が左記の規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいファイル名を記述して下さい。
26	ファイル名に誤りがあります。バイト数はベース名 ◎◎ 桁固定、拡張子 △△ 桁固定です。	記述したファイル名の桁数が左記の規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいファイル名を半角文字記述して下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
27	ファイル名に誤りがあります。バイト数はベース名 ◎◎ 桁固定、拡張子 △△ 桁以上 ◇◇ 桁以内です。	記述したファイル名の桁数が左記の規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいファイル名を半角文字記述して下さい。
28	ファイル名に誤りがあります。バイト数はベース名 ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内、拡張子 ◇◇ 桁固定です。	記述したファイル名の桁数が左記の規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいファイル名を半角文字記述して下さい。
29	ファイル名に誤りがあります。バイト数はベース名 ◎◎ 桁以上 △△ 桁以内、拡張子 ◇◇ 桁以上 ○○ 桁以内です。	記述したファイル名の桁数が左記の規定を満たしていません。要領（案）の規定に従い、正しいファイル名を半角文字記述して下さい。
30	記入された値は TECRIS コード表に含まれていません。	発注者機関コード等の項目に入力された値が TECRIS コード表と一致しません。TECRIS コード表にある値を記入して下さい。
31	記入された値は CORINS コード表に含まれていません。	発注者コード等の項目に入力された値が CORINS コード表と一致しません。CORINS コード表にある値を記入して下さい。
32	記入された値は住所コード表(LASDEC 地方公共団体コード 6 桁の上 5 桁)と一致しません。	住所コードに入力された値が住所コード表(LASDEC 地方公共団体コード 6 桁の上 5 桁)と一致しません。住所コード表にある値を記入して下さい。
33	記入された値は住所コード表と一致しません。	住所コードに入力された値が住所コード表と一致しません。住所コード表にある値を記入して下さい。
34	指定されている納品ファイル(△△)がフォルダ(◎◎)に存在しません。(XML 或いはファイル、フォルダ名を確認して下さい)	管理ファイル(例:REPORT.XML)に記述した納品ファイルが納品フォルダに存在していません。XML に記載したファイル名が実際の納品フォルダに存在しているかを確認して下さい。
35	成果品内の DTD ファイル(◎◎)の内容が、検査する対象要領の DTD ファイル(△△)と一致しません。	成果品に格納されている DTD ファイルの内容と CS-GV が保有している DTD ファイルの内容に差異があります。DTD が古いか、DTD の記述内容が変更された可能性があります。最新の DTD を使用して下さい。
36	XML ファイル(◎◎)の XML 構成に誤りがあります。XML ファイルを確認して下さい。	XML の記述に誤りがあり、DTD に記載された規定と一致していません。 通常は、以下のような内容も同時に表示されます。 XML ファイルに誤りがあります。 ファイル名:file:///C:/ (中略) REPORT.XML エラーコード:-1072896764 行:50 桁:1 データ:<報告書オリジナルファイル情報> 理由:無効な文字で名前が始まりました。 XML ファイルが DTD の規定通りに作成されているかを確認して下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
37	「XMLファイルに誤りがあります。…(中略)…理由:DTD またはスキーマによると、要素のコンテンツが無効です。」	XML ファイルの内部の構造が適用要領(案)で定められている内容と異なるため、検査できずに本エラーを表示します。 XML 内に必要な記述が抜けている、必須項目の行が抜けている、括弧“”が消えてしまっている等が考えられます。
38	外部 XML ファイル(◎◎)が存在しない為、データを参照する事が出来ません。	次の場合にエラーを表示します。 ・打合せ簿に指定している関連資料(PHOTO.XML、DRAWINGS/F.XML)が存在しない ・地質データで関連した XML ファイル(BEDnnnn.XML、GRNDTST.XML、TSnnnnnn.XML等)が存在しない この場合、関連データの指定が正しいか確認して下さい。
39	【注意】ファイルの最大サイズを超えています。 最大サイズは(△△)MB以下です。	納品ファイルのサイズが、環境設定のファイルサイズ設定より大きい場合、表示されます。
■ 緯度経度関係メッセージ		
40	緯度、経度が岡山県の範囲を超えています。岡山県の領域の範囲は以下のとおりです。 緯度：0341600～0352100 経度：1331500～1342500	経度緯度が岡山県の範囲を超えています。 正しい岡山県の範囲の緯度、経度を記述して下さい。
41	「西側と東側」「北側と南側」の座標を入れ間違えている可能性があります。確認の上、記入して下さい。	西側境界座標経度の値が東側境界座標経度の値より小さいです。 西側境界座標経度の値と東側境界座標経度の値を確認して下さい。
■ 報告書関係メッセージ		
42	報告書ファイル名(REPORTnn.PDF)のnnと報告書オリジナルファイル名(REPnn_mm.XXX)のnnが一致していません。	報告書ファイル名とオリジナルファイル名の整合性が合わない場合エラーとします。 (例：REPORT01.PDFのオリジナルファイル名にREP03_01.PDFを使用している場合、報告書番号が異なるためエラーを出します。) 正しい報告書ファイル名とオリジナルファイル名の組み合わせで記述して下さい。
■ 打合せ簿関係メッセージ		
43	下位(もしくは上位)打合せ簿シリアル番号に指定されているシリアル番号が存在しません。	下位打合せ簿(もしくは上位打合せ簿)のシリアル番号の指定が間違っています。シリアル番号を確認し、正しいシリアル番号を記述して下さい。
■ 工事その他資料関係メッセージ		
44	同様の記述がINDEX_C.XMLの"その他オリジナルファイルフォルダ名"にありません。	OTHR.XMLに記述されるサブフォルダ名は、INDEX_C.XMLに同様のフォルダを記述する必要があります。 OTHR.XMLに記述されるサブフォルダ名を、INDEX_C.XMLにも記述するようにして下さい。
45	同様の記述がINDEX_EC.XMLの"その他オリジナルファイルフォルダ名"にありません。	同上 OTHR.XMLに記述されるサブフォルダ名を、INDEX_EC.XMLにも記述するようにして下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
46	同様の記述が INDEX_MC.XML の"その他オリジナルファイルフォルダ名"にありません。	同上 OTHR.S.XML に記述されるサブフォルダ名を、INDEX_MC.XML にも記述するようにして下さい。
■ 図面関係メッセージ		
47	追加対象工種・数値に記載がありません。	追加対象工種・数値に、値が記述されていません。基準(案)・要領(案)で規定されている以外の<対象工種・数値>を使用する場合は、必ずその値を<追加対象工種・数値>に記入する必要がありますので、記述して下さい。
48	図面種類に誤りがあります。図面種類は ◎◎ です。	ファイル名の図面種類が基準(案)に規定された図面種類、あるいは追加図面種類の略語と一致しません。基準(案)・要領(案)に規定された図面種類、或は追加図面種類の略語を記述して下さい。
49	記入された値「◎◎」は、対象工種に既に存在しています。	追加図面種類略語に記述した値は、対象工種にある図面種類が記述されました。対象工種にない記号を追加図面種類略語として使用して下さい。
50	◎◎に対する「対象工種・数値」に記載がない為、図面種類の検査を行うことが出来ません。	<図面ファイル名>の3,4桁目のアルファベットは図面種類を表しますが、使用することが可能な図面種類は、工種ごとに変化します。本エラーは各<図面ファイル名>に対する<対象工種・数値>が未記入のため発生します。相応しい工種番号をそれぞれの<対応工種・数値>に記入して下さい。
51	【注意】ファイルの拡張子が「SFC」「P21」ではありません。	岡山県電子納品ガイドラインでは、電子納品に用いるCADの拡張子は原則 SFC とされています。相応しいファイル形式でデータを作成し、納品して下さい。
52	図面ファイルと SAF ファイルの名称が一致しません。	8桁目までの図面ファイル名称と SAF ファイル名称が一致していません。8桁目までの図面ファイル名称と SAF ファイル名称を合わせて記述して下さい。
53	ラスタファイルの名称が基準に沿っていません。	7桁目までの図面ファイル名称とラスタファイル名称が一致していません。7桁目までの図面ファイル名称とラスタファイル名称を合わせて記述して下さい。
54	記述されているラスタファイル名の数と一致しません。	記述されているラスタファイル名の数と、実際のラスタファイル数が一致しません。正しいラスタファイル数を記述して下さい。
■ 写真関係メッセージ		
55	値が指定されていません。撮影年月日 は必須入力です。	撮影年月日が入力されていない場合、エラーとなります。撮影年月日を入力して下さい。
56	写真-大分類が'工事'、写真区分が'品質管理写真'もしくは'出来形管理写真'の場合は必須記入です。	写真の大分類が工事、写真区分が品質管理写真もしくは出来形管理写真の場合、工種は必須入力となります。この場合、工種を必ず入力して下さい。
57	写真-大分類が'工事'、写真区分が'出来形管理写真'の場合は必須記入です。	写真の大分類が工事、写真区分が'出来形管理写真'の場合、種別は必須入力となります。この場合、種別を必ず入力して下さい。
58	【注意】要領(案)に従い、「0」を記入してください。	農林水産省電子化写真データの作成要領(案)において、提出頻度写真は「0」を記述するように定められている為、0以外が入力されている場合は0を入力して下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
■ 地質関係メッセージ		
59	コード 1 次、コード 2 次、コード 3 次のいずれか(もしくは全て)の値が緯度経度情報から算出される値と異なります。	BEDnnnn.XML に記述されるコード 1 次、コード 2 次、コード 3 次の値は、緯度、経度情報より、決まった計算式で算出されます。これらの値が正しくありません。計算式に関しては、要領(案)を参照し、正しく記述して下さい。
60	「使用する X 軸番号」または、「使用する Y 軸番号」は「軸番号」に記入されている値を記入して下さい。	TS*.XML 内の<使用する X 軸番号>もしくは<使用する Y 軸番号>にて発生するエラーで、記入されている値が、<軸番号>に記入されていないため発生します。<軸番号>に値を記述して下さい。
61	【注意】最終深度は総掘進長以下でなければなりません。ただし、最終深度で標準貫入試験等の試験を実施している場合は問題ありません。	記述された 最終深度の値が総掘進長の値より大きい場合に表示されます。ただし、最終深度で標準貫入試験等の試験を実施している場合は問題ありません。最終深度の値と総掘進長の値を確認し、正しい値を記述して下さい。
62	「デジタル試料供試体写真ファイル名」に記入されているファイル名が要領(案)の命名規則に従っていません。	ファイル名の命名規則に合っていません。ファイル名を要領(案)の規定通りに修正して下さい。
63	【注意】GRNDTST.XML にデータシート交換用データ(TS*.XML)の記載がないためチェックを行っていません。TS*.XML がない場合はエラーではありません。	GRNDTST.XML にデータシート交換用データ(TS*.XML)の記載がない場合に表示されます。GRNDTST.XML の記載を確認して下さい。TS*.XML が元々存在しない場合はエラーではありません。
64	チェックを行っておりません。GRNDTST.XML に記載されている試験コード(◎◎)に該当する様式で記述されていません。	TS*.XML が規定の試験コードの様式(DTD)に作成されていないため、チェックできません。正しく TS*.XML を作成して下さい。
65	チェックを行っておりません。GRNDTST.XML に試験コードが記述されていません。	GRNDTST.XML 内の TS*.XML に対する<試験コード>に値が記述されていないため、発生するエラーです。<試験コード>に相応しいコードを記述して下さい。
66	◎◎ はファイル名の試料連番と一致しません。TSnnnmmm.XML の nnn と同じ値を記入して下さい。	試料連番が TSnnnmmm.XML の nnn の値と一致していない場合に発生します。TSnnnmmm.XML の nnn と同じ値を記入して下さい。
67	GRNDTST.XML に記述されている◎◎に対応する「○○」の内容と一致しません。	要領(案)では GRNDTST.XML に記入した「試験者」が TS001001.XML に記入された「試験者」と一致する必要があります。この両者の値が一致していません。一致した値を記入して下さい。
68	連番部分がフォルダ名の連番と一致しません。	電子土質試験結果一覧表ファイル名の連番部分と、TEST フォルダ内のフォルダの連番部分が一致していません。(例：BORING¥TEST 中のフォルダ名称が SIT0001 で、電子土質試験結果一覧表ファイル名が STB0002.PDF の場合)一致した値を記入して下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
■ 測量関係メッセージ		
69	"測量区分"、"測量成果区分"のフォルダの組み合わせが測量情報管理ファイル(SURVEY.XML)の"測量記録フォルダパス名"、"測量成果フォルダパス名"及び"その他データフォルダパス名"に存在しません。	測定の地形、路線等のサブフォルダのXMLに記述される測量区分、測量成果区分或は測量細区分のフォルダの組み合わせが測量情報管理ファイル(SURVEY.XML)にある"測量記録フォルダパス名"、"測量成果フォルダパス名"に記述されていません。 測量成果フォルダパス名を記述して下さい。
70	"測量区分"、"測量成果区分"のフォルダの組み合わせが測量情報管理ファイル(SURVEY.XML)の"測量記録フォルダパス名"、"測量成果フォルダパス名"に存在しません。	測定の地形、路線等のサブフォルダのXMLに記述される測量区分、測量成果区分或は測量細区分のフォルダの組み合わせが測量情報管理ファイル(SURVEY.XML)にある"測量記録フォルダパス名"、"測量成果フォルダパス名"に記述されていません。 測量成果フォルダパス名を記述して下さい。
71	"測量区分"、"測量成果区分"及び"測量細区分"のフォルダの組み合わせが測量情報管理ファイル(SURVEY.XML)の"測量記録フォルダパス名"、"測量成果フォルダパス名"及び"その他データフォルダパス名"に存在しません。	測定の地形、路線等のサブフォルダのXMLに記述される測量区分、測量成果区分或は測量細区分のフォルダの組み合わせが測量情報管理ファイル(SURVEY.XML)にある"測量記録フォルダパス名"、"測量成果フォルダパス名"に記述されていません。 測量成果フォルダパス名を記述して下さい。
72	"測量区分"、"測量成果区分"及び"測量細区分"のフォルダの組み合わせが測量情報管理ファイル(SURVEY.XML)の"測量記録フォルダパス名"、"測量成果フォルダパス名"に存在しません。	測定の地形、路線等のサブフォルダのXMLに記述される測量区分、測量成果区分或は測量細区分のフォルダの組み合わせが測量情報管理ファイル(SURVEY.XML)にある"測量記録フォルダパス名"、"測量成果フォルダパス名"に記述されていません。 測量成果フォルダパス名を記述して下さい。
73	「測量区分」が「基準点測量」「水準測量」以外の場合は「99」以外を記入することはできません。	等級の値に誤りがあります。 「測量区分」が「基準点測量」「水準測量」以外の場合は「99」を記述して下さい。
74	「測量区分」が「◎◎」の場合は指定できる値は「△△」のいずれかです。	等級の値に誤りがあります。 「測量区分」が「基準点測量」の場合は「10～14、21～24、99」のいずれかを記述して下さい。各種測量区分の関係は要領案を確認して下さい。
75	対応するデータ「○○」が成果品中に存在しません。	対応するデータが成果品中に存在しません。 対応するデータの測量成果情報を納品・記述して下さい。
■ 機械設備工事編関係メッセージ		
76	機器コードの記述が合っていません。10 から 14 桁の半角英数字、[機器コード]が発生しない場合は「ZZ」を記入して下さい。	機器コードの入力に誤りがあります。 10 から 14 桁の半角英数字、[機器コード]が発生しない場合は「ZZ」を記入して下さい。
77	「台帳フォルダ名」が未記入の場合は「0」で固定です。	<基礎情報>の<台帳フォルダ名>が未記入の場合は、必ず「0」を記入して下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
■ 官庁営繕関係メッセージ		
78	○○ にデータの記述がありません。 電子成果物の有無が「0」の場合は記述の必要はありません。	官庁営繕の管理ファイルには対象のファイルを電子納品するか否かを設定する要素<電子成果物の有無>が存在します。 この値が「0」の時、電子納品しないということになります。にもかかわらず、図面ファイル名等に何らかの記述が存在する場合に発生します。 電子成果物の有無が「0」の場合は、図面ファイル名等に何も記述しないで下さい。
79	【注意】 インデックスファイルの施設識別（建築物）コードと一致しません。	業務/工事管理ファイルに記載のある施設識別（建築物）コードと、図面管理ファイルに記載のある施設識別（建築物）コードが一致しません。 正しい値かどうか確認してください。

7.3 PDF チェック

No	エラーメッセージ	原因と対処
1	◎◎ページ目が A4 縦ではありません。	PDF ファイルに A4 縦ではないページが含まれています。A4 縦で作成して下さい。
2	フォントが埋め込まれているか、もしくは特殊なフォントが使用されています。	PDF ファイルにフォントが埋め込まれています。フォントの埋め込みをしないようにして下さい。
3	しおりが存在しません。	しおりが作成されていません。しおりを作成して下さい。
4	リンクされていないしおりが存在します。	リンクされていないしおりがあります。しおりとページのリンクを作成して下さい。
5	サムネイルが存在しません。	サムネイルを作成して下さい。
6	セキュリティが設定されています。その為、他のチェックは実行できませんでした。	セキュリティ（パスワード）が設定されています。セキュリティを解除して下さい。
7	最初に開かれるページが、◎◎ページになっています。	ファイルを開くと、最初に表示されるページが 1 ページ目以外になっています。最初に表示されるページを 1 ページ目に設定して下さい。
8	最初に開かれるページの倍率が、◎◎になっています。	ファイルの表示倍率が 100%ではありません。表示倍率を 100%に設定して下さい。
9	ファイル(○○)の読み込みに失敗しました。	ファイルが壊れている場合が考えられます。ファイルが壊れていないか確認して下さい。
10	チェック対象となるファイルが存在しません。	成果品に報告書 PDF ファイルが含まれていません。報告書 PDF ファイルがあるかを確認して下さい。要領（案）では、報告書（REPORT）フォルダに格納する PDF ファイルのみ作成規定を設けており、それ以外のフォルダに PDF ファイルが格納されていても、チェックの規定がないため、チェックを行いません。ただし、官庁営繕の成果品場合は、この限りではありません。

7.4 CAD チェック

No	エラーメッセージ	原因と対処
1	【注意】線種 「○線」、「△線」が使用されています、正しい線種は「実線」です。	基準（案）で規定されていない線種、またはユーザー定義の線種を使用しています。 ユーザー定義の線種の場合は、線種ピッチが表示されます。 問題ないか受発注者間で協議して下さい。
2	○種類の線幅が使用されています(△△mm,△△mm,…)。	要領（案）では、線幅は3種類とすると規定されています。 4種類以上の線幅が使われている場合、このエラーが発生します。線幅を3種類に変更して下さい。
3	線幅 「ユーザー定義線幅 △△ (△△mm)」が使用されています。	要領（案）で規定された線幅に変更して下さい。
4	線の太さが1：2：4の比率になっていません。	要領（案）では、線の太さの比率は1:2:4と規定されており、それ以外の比率の場合、このエラーが発生します。太さの比率を1:2:4に変更して下さい。
5	【注意】色 「○」が使用されています。正しい色は「◎」です。	要領（案）の規定以外の線色、またはユーザーが定義した線色を使用しています。 ユーザー定義の線色の場合は、線色のRGBが表示されます。 問題ないか受発注者間で協議して下さい。
6	禁則文字(横/縦) 「◎△□」に禁則文字「△」が使用されています。	要領（案）の規定で使用してはいけない文字(禁則文字)が使用されています。禁則文字を使用しないように変更して下さい。
7	1) 左側の余白(○○mm)が不足しています。 2) 要素が用紙外(○側)にあります。	1) 図面輪郭線から、用紙との間の余白が20.0mm以下に設定されている、もしくは余白になんらかの要素が描かれている場合、このメッセージが表示されます。 ただし、図面サイズを表す用紙枠線上に、直線または折れ線要素が重なって(許容範囲0.0001mm)いた場合は、このエラーが発生しませんが、用紙枠線が規定の図面サイズと一致しない場合は、このエラーが発生します。 2) 図面輪郭線外(20.0mm)に要素がある場合、このエラーが発生します。 余白を調整して下さい。
8	用紙サイズが○○です。	用紙サイズが規定サイズのA1以外、フリーサイズ等の場合、このエラーが発生します。 規定のサイズに修正して下さい。
9	レイヤ名 [レイヤ名] は基準(案)・要領(案)のレイヤ名に適合していません。	要領（案）に規定されていないレイヤ名を使用しています。 正しいレイヤ名を使用して下さい。 追加レイヤの場合は、XMLに記述しておく必要があります(ただし測量フォルダ内の測量図面は追加レイヤを使用できません)。 また、AutoCADから変更する場合は、0レイヤが出力されることがありますので、出力されない設定をした上、変換を行って下さい。
10	新規レイヤ [レイヤ名] が使用されていません。	XMLに追加レイヤを記述したにもかかわらず、実際図面にこの新規レイヤが使用されていません。 新規(追加)レイヤについて、図面の中の使用状況を確認して下さい。

No	エラーメッセージ	原因と対処
11	レイヤ名 [レイヤ名] は新規レイヤとして使用されています。	エラーではありません。 XML に記述した新規（追加）レイヤが正しく図面に使用されていることを示します。
12	外枠のレイヤ(TTL 関連)がありません。	図面レイヤに、T T Lレイヤが使用されていない場合、このエラーが発生します。 T T Lレイヤは必須ですので、T T Lレイヤを作成の上、図面の輪郭線を設けて下さい。
13	【注意】重複した要素があります。	重複した要素があります。 問題ないか受発注者間で協議して下さい。
14	【注意】連続するショートベクトルがあります。	連続するショートベクトルがあります。 問題ないか受発注者間で協議して下さい。
15	【注意】背景と同色の要素があります。	背景と同色の要素があります。 問題ないか受発注者間で協議して下さい。
16	【注意】縦書きフォントを横書きで使用している文字があります。	縦書きフォントを横書きで使用している文字があります。 問題ないか受発注者間で協議して下さい。
17	選択された設計種類には指定された図面種類を持つものはありません。（協議事項による追加の場合はNGではない可能性があります） <このファイルの内容の検査は行われませんでした>	指定された設計種類に、ファイル名に記述された図面種類が存在しない場合、チェック基準がありませんので、このメッセージが表示されます。 ファイル名に記述した図面種類が正しいかを確認して下さい。 ただし、受発注者の協議で決めた図面種類であれば、このメッセージを無視して下さい。
18	図面のオープンに失敗しました。	図面ファイルが開きません。 図面ファイルの形式やファイルの破損状況を確認して下さい。
19	チェック対象となるファイルが存在しません。	P21、SFCファイルが成果品に含まれていない場合、このメッセージが表示されます。
20	チェックを行っていません。	以下の条件の場合、CADチェックは行われません。 ・DRAWING、DRAWINGS、DRAWINGFフォルダが存在しない場合 ・営繕成果品の場合

7.5 日付チェック

No	エラーメッセージ	原因と対処
1	[(ファイルパス) ¥ (ファイル名)]は、工期外に作成されたファイルです。	<p>INDEX*.XML に記載されている工期外に作成されたファイルです。</p> <p>(例：INDEX_C.XML の工期開始日・終了日が「2013-05-01」～「2013-7-31」の場合、ファイル更新日時が2013年9月20日だと、工期範囲外のためエラーとなります。)</p> <p>工期外のファイル更新日時で問題ないか、確認して下さい。</p> <p>※環境設定では、許可する範囲を以下の3種類から選択できます。</p> <p>①「工期範囲内のみ許可する」 ②「工期範囲内と工期後を許可する」 ③「工期範囲内と工期前を許可する」</p>
2	[(ファイルパス) ¥ (XXX.JPG)]は、Exif 情報と更新日付が一致しません。	<p>成果品内の JPG ファイルについて、ファイル更新日時と Exif 情報 (JPG ファイル内部で持つ撮影年月日情報) に差異があります。</p> <p>写真撮影後にファイルを編集した可能性がありますので、問題ないか、確認して下さい。</p>
3	[(ファイルパス) ¥ (XXX.JPG)]は、Exif 情報の更新日付が確認できません。	<p>成果品内の JPG ファイルについて、ファイル更新日時と Exif 情報 (JPG ファイル内部で持つ撮影年月日情報) が存在しないため、ファイル更新日時との比較ができません。</p> <p>問題ないか、確認して下さい。</p>

岡山県電子納品チェックシステム

バージョン 2021.0.01.01

岡山県
